

現行  
訴訟  
便宜

內藤傳右衛門編纂  
全

CZ  
781  
012



036743-000-6

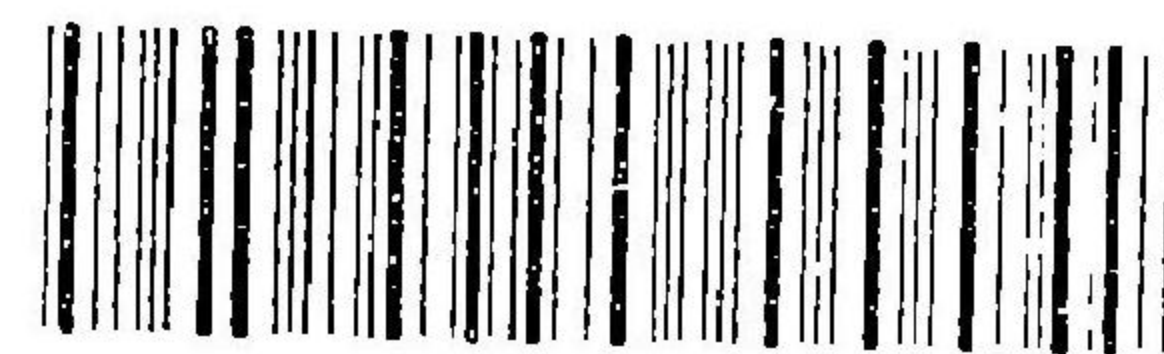
CZ-781-012

現行訴訟便宜

温故堂

M17

BBS-0177





内藤傳右衛門編纂

現行

訴訟便宜全

明治十七年十月出版

例言

特58  
919

一 本書ハ專ラ訴訟上一大緊要ナル規則ヲ編纂セ  
シモノニシテ單行令等ハ加入セス即チ見閲ノ  
繁雜ヲ厭ヒ便宜ヲ主トスレバナリ

二 書中勸解ヨリ執行濟口迄ノ諸書式ヲ示シタル  
ハ苟モ本書ヲ攜帶スルノ諸君ハ目前之レヲ用  
ユルヲ以テナリ

一 書中都テノ契約書式ヲ示シタルハ訴訟中許多

CZ  
981  
012



内藤傳右衛門編纂

現行  
訴訟便宜  
全

明治十七年十月出版

特58  
919

例言

一 本書ハ專ラ訴訟上一大緊要ナル規則ヲ編纂セ  
シモノニシテ單行令等ハ加入セス即チ見聞ノ  
繁雜ヲ厭ヒ便宜ヲ主トスレバナリ

一 書中勸解ヨリ執行濟口迄ノ諸書式ヲ示シタル  
ハ苟モ本書ヲ攜帶スルノ諸君ハ目前之レヲ用  
ユルヲ以テナリ

一 書中都テノ契約書式ヲ示シタルハ訴訟中許多

CZ  
781  
012



ノ契約アルヲ以テ容易ニ文案シ得ルヲ量レバ  
ナリ

明治十七年十月

編者 爾

訴訟便宜目次

第一章	民事裁判所權限	一丁
第二章	勸解規則	二丁
第三章	訴訟文例	五丁
第四章	訴訟用印紙規則	四十丁
第五章	代言人規則	四十二丁
第六章	所屬代言人規則	四十九丁
第七章	代人規則	同丁
第八章	訴訟入費規則	五十二丁

訴訟便宜目次



第九章	出訴期限規則	五十五丁
第十章	利息制限法	五十七丁
第十一章	使丁取締規則	五十八丁
第十二章	地所質入書入規則	六十一丁
第十三章	建物書入質規則	六十七丁
第十四章	土地賣買讓渡規則	七十五丁
第十五章	證券印稅規則	七十八丁

○第一章 民事裁判所權限

明治十四年十二月廿八日第八十三號布告

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス

但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件  
ハ勸解スルノ限ニ在ラズ

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ  
付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノ  
ヲ裁判スルヲ得ズ

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三  
訴訟便宜



條ニ掲ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス  
第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ  
對スル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準ス  
ヘシ

○第二章 勸解規則

明治九年九月二十七日司法省第六十六號達區裁判所仮規則ノ  
内

第六條 凡ソ民事ニ係ルモノハ金額ノ多少事ノ輕重ニ拘ラズ  
詞訟人ノ情願ニ任セ之ヲ勸解スヘシ

第七條 勸解ヲ乞フ者ハ訴狀ヲ作ルニ及ハズ直チニ該廳ニ願  
出テ其事由ヲ陳述スルヲ得セシムヘシ

第八條 勸解ハ双方トモ必ズ本人自カラ出頭セシムヘシ

但シ疾病事故等ニテ已テ得サル時ハ其代人トシテ親戚又  
ハ定マリタル雇人ヲ出サシムヘシ

第九條 凡ソ勸解ハ必シモ定規ニ拘ハラサル者トス

但勸解ト雖トモソノ不參若クハ遲參ニ係ル者ハ裁判所成  
規ニ據リ處分スヘシ

明治八年十二月廿八日司法大丞ヨリ達

第一條 凡ソ勸解ヲ乞フ原告者ハ第一號書式ノ如キ名刺ヲ訴  
所ニ進達セシム

第二條 訴所詰名刺ヲ收メ第一號書式ノ如ク番號ヲ朱書シ屬  
ニ出シ原告人ハ直ニ勸解席ニ至ラシム

第三條 屬ハ其名刺ヲ受取リ第二號書式ノ如ク請取録ニ記載  
訴訟便宜



シ順次判事補ニ分賦ス

第四條 掛リ判事補之ヲ受取り直ニ名刺ヲ携ヘ勸解席ニ莅シ  
原告人ナシテ願意ヲ陳述セシメ直ニ召喚狀ヲ下附ス

但シ證據アルモノハ檢閲印ヲ押ス

一召喚ノ期ハ三日ヲ不可過

第五條 期日至リ原被出頭ヲ届出シハ直ニ勸解席ニ至ラシメ  
而シテ掛リ判事補ニ申通スレハ掛リハ直ニ席ニ莅ム

第六條 勸解ニ服シタル節ハ雙方連印ノ日延書或ハ願下紙面  
ヲ出スヘキ旨ヲ命ス

第七條 願下ヲ爲ス時ハ紙面檢印ノ上名刺ヲ朱抹シ屬ニ附ス  
屬請取録ヲ朱抹シ編冊ニ入ル

第八條 若シ勸解ニ服セサル者アレハ名刺ヘ勸解不調ト朱書

シ屬ニ通ス屬受取録ニ調印スルコト書式ノ如シ

第九條 若シ原被同行出頭シテ勸解ヲ乞フ者アルハ亦妨ケナ  
シトス

第十條 勸解中財産分配ヲ以テ濟方致度旨申出ル時ハ各債主  
ヘ示談ノ上分配スヘキ旨原被連印ノ紙面ヲ徴シテ一件落着  
ス

明治九年十一月廿七日司法省甲第十七號諭達

民事ノ詞訟ハ可成丈ケ一應區裁判所ノ勸解ヲ乞フ可シ此旨諭  
達候事



勸解願名刺ノ書式但シ美濃紙ニツ折ヲ用ユ

第

一

號

勸解何年何號

何所何番地

身分

原告人

姓

名

印

何々勸解ノ願

何町何番地

身分

被告人

姓

名

印

年月日

原告代人アレハ書式左ノ如シ  
別ニ代言届ヲ徴スルニ及ハス

何町何番地

身分

原告人

姓

名

印

代人

何町何番地

身分

姓

名

印

何々勸解ノ願

何町何番地

身分

被告人

姓

名

訴訟便宜

四



請取録書式并濟口朱抹ノ式 但シ勸解不調ノ時ハ其印ヲ捺ス

第

二

號

番號

掛リ姓 原告

姓

名

何町何番地

身分

月日滯

何町何番地

身分

被告

姓

名

勸解不調

第

三

號

○捺印

何町何番地

何

誰

右ノ者ヨリ 定約違變 勸解願出ルニ付  
貸金其他 同道可罷出者也

年月日

某 裁判所

何町何番地

何

誰

○第三章 訴答文例

明治六年七月第二百四十七號布告

訴訟便宜

五



今般訴答文例并附錄別冊ノ通被相定候ニ付來ル九月一日ヨリ  
原被告人共訴答文式都テ此例ニ照準可致此旨相達候事

(別冊)

訴答文例

第一卷 原告人ノ訴狀

第一章 原告人ヨリ被告人任所身分ノ書付ヲ取ル事

第一條 訴訟ヲ爲サントスル原告人ハ其管轄ノ(町村)役場ノ  
添翰ヲ以テ被告人ノ現任管轄ノ(町村)役場ニ至リ被告人ノ  
身分ノ書附ヲ取ル後訴狀ヲ作ル可シ若シ住所氏名身分明  
瞭ナラハ其書附ヲ取ルニ及ハス  
住所トハ某(府縣)管下某國某郡某(町村)住居又ハ寄留ト記  
スノ類

身分トハ官名役名華族士族神職僧尼百姓何職何商賣何渡世  
ト記スノ類

若シ一戸ノ本主ニ非スシテ子弟又ハ厄介ノ類ハ某ノ子弟又  
ハ某厄介ト記ス可シ

第二條 原告人被告人ト管轄ヲ異ニシ道路隔絶ナラハ原告人  
我管轄ノ(町村)役場ニ願ヒ役場ノ文通ヲ以テ被告人ノ氏名  
住所身分ノ書附ヲ取ルモ亦妨ケ無シトス但シ役場文通ノ入  
費ハ原告人ヨリ償フ可シ

但此章原告外國人ナル時ハ本人名前本國職分及寄留ノ處  
ヲ訴狀中ニ記載シ次ニ被告ノ名前職分住所等委細記載  
ス可シ

第二章 代書人ヲ用フル事

訴訟便宜



第三條 (七年七十五號布告ニテ廢止ス後ニ出ス)

第四條 (七年七十五號布告ニテ廢止ス該布告後ニ出ス)

第五條 代書人疾病事故アリテ之ヲ改撰スル時ハ即日頼主ヨリ裁判所ニ届ケ且ツ相手方ニ報告ス可シ其裁判所ニ届ケス被告人ニ報告セサル以前ハ假令代書スルモ代書人ト看做ス可テ得ス

但外國人ハ此章ノ限ニアラス

第三章 訴狀ノ定則ノ事

第六條 訴狀ヲ作ルニハ左ノ定則ニ循フ可シ

第一 訴狀ハ簡明確實ニシテ證據ト爲ス可キ事件ヲ掲ケ文飾冗長ナラサルコトニ注意シ自己ノ想像ヲ以テ踪跡ナキ事件ヲ述ルコトヲ得ス

第二 一切ノ訴狀ハ首ニ原被告人ノ氏名ヲ記シ住所身分ヲ肩書ニシ其末ニ年月日ヲ記シ原告人ト代書人トノ氏名連印スヘシ(附錄第一號ヲ見合ス可シ)

但外國人ノ爲ニハ第一章但シ書ヲ見ル可シ

第三 訴狀ノ末ニ署スル氏名ハ其本人自署ス可シ若シ自署スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記スヘシ

第四 訴狀ハ十六行ニシテ一行十五字結ニ認メ正副二通ヲ具ス可シ

但外國人ノ訴狀ハ銘々英佛語ヲ以テ認ルコトヲ得ヘシ其日本翻譯ハ裁判所ニ於テ正副二通ヲ認メ其手数料ヲ取立ツヘシ

第五 被告人ノ住所呼出テ受ク可キ裁判所ノ八里ノ距離外訴訟便宜



ニ在ル時ハ其里數ヲ被告人ノ氏名ノ左側ニ記載ス可シ若  
シ八里以内ナル時ハ其里數ヲ記載スルニ及ハス

#### 第四章 訴狀ノ書式ノ事

#### 第七條 貸附米金等淹滞ノ訴狀

貸附米金等淹滞ノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ米金元利ノ計算ト  
貸渡シタル年月日トヲ標記シ次ニ證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ  
期ヲ過キテ返濟セサル事情ヲ書ス可シ（附錄第二號ヲ見合  
ス可シ）

田島ヲ貸渡シタル小作米金又ハ物品ノ損料金又ハ諸種ノ立  
替金又ハ召抱人等ノ引負金又ハ職人等ノ前貸米金又ハ貸地  
貸家等ヲ受取ラントスルノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ

但以下十九條迄原告外國人ナル時ハ其訴訟ノ趣意并願意

ヲ簡明ニ記載ス可シ（但附錄第十八號ヲ見合ス可シ）

#### 第八條 預ケ米金淹滞ノ訴狀

預ケ米金淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ米金ノ員數ト預ケタ  
ル年月日トヲ標記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約シ  
テ返濟セサル事情ヲ書ス可シ

借地等ノ敷金又ハ妻及ヒ養子女等ノ持參金又ハ實家若クハ親  
族等ノ仕送り金ヲ受取ントスルノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ

#### 第九條 賣掛代金淹滞ノ訴狀

賣掛代金淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ金高ヲ標記シ次ニ其  
帳面總計ノ高ヲ出シ之ニ被告人ノ證印アルコトヲ記入シ次ニ  
違約淹滞シタル事情ヲ書ス可シ（附錄第二號ヲ見合ス可シ）  
賣掛代金又ハ旅籠代金賄代金等通帳附込帳等ニ被告人ノ證

訴訟便宜



印ナキ時ハ原告人ノ證據ト爲スヲ得ス

第十條 手附金賣買違約ノ訴狀

諸物品ヲ買ヒ手附金ヲ渡シ約定期限内ニ殘金ヲ渡サントスル時ニ至リ被告人違約シテ諸物品ヲ渡サ、ルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ買附タル物品ノ總高次ニ手附金ヲ渡シタル年月日及ヒ殘金ヲ渡シ物品ヲ受取可キ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ（附錄第四號ヲ見合ス可シ）

諸物品ヲ賣リ手附金ヲ受取リ約定期限ニ至リ殘金ヲ受取ル可キ時ニ被告人違約シテ殘金ヲ渡サ、ルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ手附金ヲ受取リタル年月日及ヒ殘金ヲ受取リ物品ヲ渡ス可キ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫

載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ（附錄第五號ヲ見合ス可シ）

第十一條 受負料淹滞ノ訴狀

諸職業受負淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ受負ヒタル年月日ト受負ノ金高ト既ニ受取リタル金數ト未タ受取ラサル金數トヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ

第十二條 奉公人違約ノ訴狀

奉公人ニ年期ヲ約シ前金ヲ渡シ其年期未滿内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取返サントスルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ抱入レタル年月日ト約定ノ年期ト前渡シノ金數トヲ標記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ

職業傳習ノ弟子職業練熟ノ後ハ禮奉公ノ年期ヲ約シ年期未

訴訟便宜



満内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取戻サントスルノ訴狀モ亦  
本條ニ照ス可シ

奉公人又ハ弟子奉公ノ者等其主人師匠ヨリ受取ル可キ給米  
金淹滞ノ訴狀モ亦本條ニ照スヘシ

### 第十三條 專賣免許ヲ犯シタルノ訴狀

專賣ノ免許ヲ得タル者ヨリ他ノ摸倣密賣スル者ヲ差留メ  
トナルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ專賣免許ヲ得タル年月日ト  
免許ヲ受タル役所ノ名ト專賣免許ノ年限トヲ標記シ次ニ免  
許ノ證印又ハ證書ヲ寫載シ次ニ其密賣ノ事情ヲ書ス可シ  
諸商工專賣ノ免許ナクシテ株式ト稱スル者ハ自己ニ妨アル  
ヲ以テ他人ノ商業ヲ差留ル事ヲ訴ルヲ得ス

### 第十四條 商社中取引ノ訴狀

商社中甲ノ商人ヨリ乙ノ商人ニ對シ各種ノ取引ノ米金又ハ  
物品ノ類ニテ乗合商賣ト稱スル者モ證書確實ナル者ハ之ヲ  
訴ルコトヲ得可シ其訴狀ハ取引ノ摸倣ニ付キ各種ノ本條ニ  
照ス可シ

先ニ開キシ商社ニ後ニ開カントスル商社ノ妨シルコトアル  
ヲ以テ之ヲ訴ルコトヲ得ス但シ專賣免許ヲ犯スコトヲ得サ  
ルノ法ト相抵觸スルコト無ルヘシ(第十三條ヲ見合ス可シ)

### 第十五條 夫妻離別ノ訴狀

夫妻離別ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ夫妻ノ氏名生年及ヒ婚姻  
ノ年月日ヲ標記シ次ニ其戸長役場ニ届置キタル戸籍人別ヲ  
寫載シ次ニ離姻ヲ爲ス可キ原由ヲ書ス可シ

原告人夫ナレハ其父母若シ父母在ラサレハ祖父母祖父母在

訴訟便宜



ラサレハ尊族ノ親尊族ノ親在ラサレハ同等ノ親同等ノ親在  
ラサレハ卑族ノ親卑族ノ親在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二  
人以上ノ奥書連印ヲ爲ス可シ(附録第六號ヲ見合ス可シ)  
原告人妻ナルモ前條ニ照シテ其父母親族等ヨリ訴フ可シ若  
シ事危急ニ出テ親族等ニ告ルニ暇ナキ時ハ自ラ訴フ事ヲ得  
可シ

第十六條 養子女ヲ離別スルノ訴狀

養子女ヲ離別スルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ養父母及ヒ養子  
女ノ生年ト其養子女トナシタル年月日ヲ標記シ次ニ原被双  
方ノ戸籍人別ヲ寫載シ次ニ離別スヘキ理由ヲ書シ原告人親  
族在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲ爲ス  
可シ

本生父母ヨリ養子女ヲ取戻サントスルノ訴狀モ本條ニ照ス  
可シ若シ本生父母在ラサレハ其親族ヨリ訴ルヲ得ヘシ  
養子女ヨリ養父母ヲ相手取リテ自ラ離別ヲ請フ訴ヲ爲スコ  
トヲ得ス

第十七條 家督相續ノ訴狀

家督相續ヲ爭フ訴狀モ住所氏名ノ次ニ亡父母ハ死亡ノ年月  
日生父母ハ其生年ト原被告人生年トヲ標記シ次ニ原被雙方  
ノ戸籍人別ト讓狀遺狀等ノ證書アレハ其全文ヲ寫載シ次ニ  
自己相續ス可キ條理ト被告人相續ス可キ條理ナキヲ書ス  
可シ(附録第六號ヲ見合ス可シ)

第十八條 田畑山林等賣買違約ノ訴狀

田畑山林屋敷建家等ヲ買ヒ之ヲ受取ラントスルノ訴狀及ヒ

訴訟便宜



貸地貸家ヲ取戻サントスルノ訴狀モ第十條ノ第一項ニ照ス可シ

田畑山林屋敷建家等ヲ賣リ之ヲ引渡シテ其代價受取ントスルノ訴狀モ第十條ノ第二項ニ照ス可シ

### 第十九條 經界ヲ爭フノ訴狀

國郡鄉村山川田宅等ノ分界ヲ爭フノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ其舊記繪圖ノ枚數ヲ標記シ次ニ被告人ノ非理ヲ書ス可シ  
舊記繪圖ノ寫ハ別冊ト爲シ目錄ヲ附シ各番號ヲ朱記ス可シ  
繪圖ハ色ヲ以テ區別シ原告ノ區域ハ淺紅色ヲ用ヒ被告ノ區域ハ黃色ヲ用ヒ爭フ所ノ區域着色ヲ用ヒズ其他ノ經界ハ別色ヲ用ユ可シ(附錄第七號ヲ見合ス可シ)  
但第七條但シ書ヲ見ル可シ

### 第二十條 控告ノ訴狀

原告人預審又ハ終審ノ裁判言渡ヲ受ケ其ノ裁決ニ服セスシテ之ヲ上等ノ裁判所ニ控告セントスルノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ訴訟ノ題目ト其年月日ト裁判所ニ呼出サレタル度數其年月日ト訟庭ニ臨ミタル裁判役ノ氏名ヲ知ルヲ得可キニ於テハ之ヲ記載シ次ニ其裁判言渡書ノ寫ト裁決ニ服セサルノ旨趣トヲ書シ且ツ前訴狀ノ寫ヲ別冊ト爲シ訴出可シ但シ控告人ノ住所ト控告ヲ爲ス裁判所トノ距離八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ得ルノ外裁決ノ言渡ヲ受タル日ヨリ二ヶ月ノ期限ヲ過ル時ハ控告ヲ爲スコトヲ得ス

### 第五章 一冊ノ訴狀ハ一事件ニ止ル可キ事

第二十一條 原被告人共人員多少ニ拘ラズ訴狀ハ一事ヲ一冊

訴訟便宜



ニ書スルニ限ル可シ又原告人一名ニシテ全時ニ數件ヲ訴フルモ訴狀ヲ各冊ニ作ル可シ

第六章 一冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スルヲ得ル事

第二十二條 貸借ニ事以上ニシテ原被告人共別人ニ非レハ一冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スヲ得可シ

第七章 原告人連名ノ訴狀ノ事

第二十三條 債主連名ノ證文ヲ以テ米金等ヲ貸附タル訴狀ハ連名ヲ以テ訴フ可シ若シ債主連名三人ナルチ一人ニシテ訴フル時ハ他ノ二人ヨリ依頼ノ證書ヲ以テ訴フ可シ(附録第八號ヲ見合ス可シ)

第二十四條 債主二人以上ニシテ管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ訴ルモ乙ノ管轄ニ訴ルモ其便宜ニ從フ可シ

第八章 連名ノ被告人ヲ訴フル事

第二十五條 負債主連名ノ借用證文ヲ以テ貸渡シタル米金等ノ訴狀ハ連名ノ人數ヲ盡ク相手取ル可シ

第二十六條 負債主連名中若シ失踪死亡等ニテ相續人ナキ者アラハ連名ノ末ニ其人名ヲ記シ年月日失踪死亡等ノ事ヲ其者ノ管轄戸長某ヨリ承ルト附載スヘシ(附録第九號ヲ見合ス可シ)

第二十七條 負債主ノ連名中管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ於テ審判スルチ願モ乙ノ管轄ニ於テスルチ願フモ原告人ノ情願ニ任スヘシ

第九章 讓證文ヲ以テ訴ル事

第二十八條 甲ヨリ乙ニ貸シ又ハ預ケタル米金ヲ甲ヨリ丙ニ訴訟便宜



讓リタルニ乙ヨリ丙ニ返濟セヌシテ丙ヨリ乙ヲ相手取り其  
米金ヲ受取ントスル訴狀モ住所氏名ノ次ニ甲ヨリ丙ニ讓リ  
タル證文ヲ寫載シ若シ甲ヨリ丙ニ讓リタル證文無レハ甲ト  
乙ノ關係ニシテ乙ト丙トノ關係ナシトス故ニ丙ヨリ乙ヲ相  
手取ルコトヲ得ス(附錄第十號ヲ見合ス可シ)

第二十九條 父母祖父母等ノ貸附タル米金等ハ其ノ家ノ相續  
ヲ爲シタル者ニ非レハ其子孫ニシテ貸附證文ヲ所持スト雖  
トモ父母祖父母等ノ讓渡シタル證書ナキ時ハ之ヲ訴フルコ  
トヲ得ス

但外國人ハ其本人ノ國法ニ隨ヒ正シキ權ヲ得可シ

### 第十章 代官人ノ事

第三十條 (九年十八號布告ニテ廢止ス)

第三十一條 (九年十八號布告ニテ廢止ス)

第三十二條 (九年十八號布告ニテ廢止ス)

### 第二卷 被告人ノ答書

#### 第一章 答書ノ定則ノ事

第三十三條 答書ヲ作ルニハ左ノ定則ニ循フ可シ

第一 被告人裁判所ノ呼出狀ト共ニ原告人ノ訴狀ヲ受取  
ル時原告人ノ陳述ナル所條理アラハ速ニ熟議シ原告人  
之ヲ許諾セハ解訟ヲ請フ事ヲ得ヘシ其場合ニ於テハ代  
書人ヲシテ熟議解訟ノ答書ヲ作ラシメ之ヲ裁判所ニ呈  
ス可シ(第四十七條及四十八條ヲ見合ス可シ)

第二 原告人ノ述ル所非理不實ニシテ辨解スヘキ確證アラ  
ハ其書類ノ全文ヲ寫載シ次ニ非理不實ノ事ヲ書ス可シ

訴訟便宜



第三 答書ノ首ニ被告人ノ氏名ヲ記シ住所身分ヲ肩書ニシテ答書ノ末ニ年月日ヲ記シ被告人ト代書人トノ氏名連印アル可シ(附錄第十三號ヲ見合スヘシ)

第四 答書ノ末ニ署スル氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ユ可シ若シ本人自署スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記ス可シ

第五 答書ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具ス可シ

#### 第二章 代書人ヲ用フル事

第三十四條 (七年七十五號布告ニテ廢止ス該布告後ニ出ス)

#### 第三章 代官人ノ事

第三十五條 (九年十八號布告ニテ廢止ス)

第三十六條 (九年十八號布告ニテ廢止ス)

第三十七條 (九年十八號布告ニテ廢止ス)

#### 第四章 原告人ノ返リ證文ヲ所有シタル答書ノ事

第三十八條 負債主米金等ヲ返済スルニ債主原ノ證書ヲ還付セサルヲ以テ二重ノ催促ヲナス訴訟ハ被告人其答書ニ返リ證文(返證文ハ債主ヨリ原ノ證書ヲ還付セスシテ其米金受取ノ證書ヲ交付スルヲ云フ)ヲ寫載シ次ニ原告人二重ノ催促ヲ爲シタル旨ヲ書ス可シ

第三十九條 原告人米金等ヲ受取リタルノミノ證書ニシテ貸附ノ米金等ヲ受取リタル確證ノ文字ナク又ハ他ノ憑據トス可キ證跡ナキ時ハ其米金ヲ受取タルノミノ證書ヲ以テ返リ證文ト看做スコトヲ得ス

訴訟便宜



第五章 原告人ヨリ返濟延期ノ約ヲ破リタル答書ノ事  
第四十條 借用ノ米金等ヲ返濟ス可キ期限ニ至リ負債主ヨリ  
債主ニ熟議シテ返濟延期ノ約ヲ結ヒ其證書ニ押印ヲ爲シタ  
ル債主ヨリ其約ヲ破リ本證文ニ據リ訴ヘタル答書ハ對談一札  
〔對談一札トハ返濟延期ノ證書ヲ云フ〕アルコトヲ記シ次ニ其證  
書ノ全文ヲ寫載シ次ニ原告人ノ約ヲ破リタルコトヲ書ス可シ  
第四十一條 負債主ヨリ返濟延期ノ約ヲ破リタル事件ヨリ起  
リ債主本證文ニ據リ訴出シタル原由アル時ハ負債主ナル者已  
レヨリ約ヲ破リタル返濟延期ノ證書ヲ以テ原告人破約ノ證  
トナスコトヲ得ス

第六章 原告人証書ヲ偽造シタル答書ノ事

第四十二條 被告人ノ證書ヲ原告人偽造シタル答書ハ其偽造

ヲ証スル爲ニ管轄(町村)ノ役場ニ届ケ置タル年月日ノ人別  
帳ノ寫ヲ記載シ次ニ此人別帳ノ印ト證書ノ印ト相違シタル  
旨ヲ書ス可シ(編者曰ク人別帳トハ戶籍簿ヲ言フ)

第七章 經界ヲ爭フ答書ノ事

第四十三條 國郡鄉村山川田宅等ノ分界ヲ爭フ答書ノ方法ハ

第十九條ヲ照ス可シ

第八章 既ニ訴ヘラレタル事件ニ未タ訴ヘサル事件ヲ

接續スル事

第四十四條 負債主米金ヲ返濟ス可キ期限ヲ過キテ返濟セサ  
ルヲ訴ヘラレタルニ別ニ其債主ヨリ受取ル可キ米金アリテ  
其受取可キ期限モ亦タ過キ未タ訴ヘスト雖トモ雙方均シク  
返濟ノ約期ヲ破リタルヲ以テ兩件ヲ接續シ差引ノ計算ヲ爲

訴訟便宜



サントナル答書ハ負債主ヨリ其別ニ受取ル可キ米金ノ証書  
ヲ寫載シ次ニ差引計算ヲ爲スノ旨ヲ書ス可シ

第四十五條 負債主甲某債主乙某ヨリ借用シタル米金ヲ返濟  
スヘキ期限ヲ過キテ訴ヘラレタルニ答ルニ當リ甲某其借用  
シタル米金ハ更ニ丙某ニ貸附ケ其期限ヲ過キ返濟セサルヲ  
以テ既ニ訴ヘラレタル乙某ノ事件ト未ダ訴ヘサル丙某ノ事  
件トヲ接續シテ丙某ノ返濟ヲ爲ス可キ米金ヲ以テ乙某ニ返  
濟センコトヲ答ルヲ許サス何トナレハ乙ノ貸ス所ノ者甲ニシ  
テ丙ニ非ス丙ノ借ル所ノ者ハ甲ニシテ乙ニ非ラサルヲ以テ  
ナリ

第九章 對決前熟議解訟ヲ爲シタル答書ノ事

第四十六條 被告人訴狀ニ對シ辨解スルコト能ハサル者ハ速ニ

原告人ト熟議シ對決前ニ解訟ヲ爲シタル答書ハ原告人承認  
ノ奥書連印ヲ爲サシム可シ(附錄第十四號ヲ見合ス可シ)

第四十七條 前條ノ場合ニテ貸借淹滞ノ訴ニ起ル解訟ノ答書  
ハ償ノ既濟又ハ未濟ト雖モ更ニ延期ノ約ヲ結ヒタル等ハ前  
條ニ照ス可シ各種違約ノ訴訟ハ原被雙方ノ熟和ニ至リ又ハ  
更ニ改定ノ條約ヲ立テタル等モ亦前條ニ照ス可シ

第十章 對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書ノ事

第四十八條 原被告人對決審判前ニ被告人ヨリ負債ヲ返濟ス  
ルノ延期ヲ請ヒ原告人之ヲ承諾シ其審判ヲ仰ガズ延期ノ日  
ニ至リ完ク返濟スルノ後解訟ノ証書ヲ呈セントスル者ハ其  
答書ニ延期ノ旨趣ヲ書シテ原告人承諾ノ奥書連印ヲ爲サシ  
可シム(附錄第十五號ヲ見合ス可シ)

訴訟便宜



第十一章 對決前親戚又ハ朋友ヨリ代償ノ延期ヲ約シ  
テ解訟ヲ爲シタル答書ノ事

第四十九條 原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚或ハ朋友ヨリ被告人ノ負債ヲ延期代償センコトヲ請ヒ原告人之ヲ承諾セハ熟議解訟ノ答書ニ其延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及ヒ原告人ノ與書連印ヲ爲サシム可シ（附錄第十六號ヲ見合ス可シ）

第十二章 對決前親戚又ハ朋友ヨリ代償延期ノ約定ヲ爲シタル答書ノ事

第五十條 原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被告人ノ負債ヲ延期代償センコトヲ請ヒ原告人之ヲ承諾シテ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ完ク返濟スルノ後解訟ノ証

書ヲ呈セントスル者ハ其答書ニ延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及ヒ原告人ノ與書連印ヲ爲サシム可シ（附錄第十七號ヲ見合ス可シ）

訴答文例附錄  
第一號

訴狀表紙ノ式

某訴狀	年月日
住所	身分
氏	名

某訴狀トハ假令ハ貸金ノ淹滞ヲ訴ルハ貸金催促ノ訴狀ト記  
シ流質地ノ爭訟ハ流質地引渡催促ノ訴狀ト記スノ類  
訴訟便宜



式ノ狀訴

某訴	原告人	住所	身分	氏名
標記云云	被告人	住所	身分	氏名
右原告人氏名申上候私儀云云				
年月日	代書人	住所	身分	氏名印
某裁判所				

號二第 貸金催促ノ狀訴

貸金催促ノ狀訴	原告人	住所	身分	氏名
	被告人	住所	身分	氏名
一元金何圓	年月日貸附			
一利金何圓	一年又ハ一			
合 何圓	月幾分ノ利			
右證文ノ寫ハ左ノ如シ				
訴訟便宜				



第三號 賣掛代金滯滞ノ訴狀

借用證文

一金何圓

借主

右云云

證人

氏名 氏名

貸主 名當

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所

身分

氏名印

住所

身分

氏名印

代書人

某裁判所

住所

身分

氏名

賣掛代金滯滞ノ訴

原告人

住所

身分

氏名

被告人

一金何圓

右賣掛帳ノ總計高ニ御坐候  
但帳面ニ被告人ノ證印有之候  
若賣掛帳ニ非スニテ證文ナシハ其證文ノ  
全文ノ寫ヲ出ス可シ

右原告人氏名申上候云云  
年月日

住所

身分

氏名印

某裁判所

代書人

訴訟便宜

二十



第四號  
買附米引渡違約ノ訴狀

原告人

住所  
身分

氏名

買附米引渡違約ノ訴

被告人

住所  
身分

氏名

一米何石 年月日買取約定済  
此度受取ル可キ石高  
代金何圓 一石ニ付  
何圓替

内何圓 年月日手附金トシテ渡濟  
殘何圓 年月日限現米引替ニ渡ス可キ約定  
右約定證書ノ寫左ノ如シ

證書云云

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所

氏名印

身分

氏名印

代書人

某御裁判所

訴訟便宜



賣附生系代金引

賣附生系代金引渡違約ノ訴

原告人

住所

身分

氏

名

被告人

住所

身分

氏

名

一金何圓 年月日限生系引替ニテ  
受取ル可キ殘金高  
元金何圓 年月日生系何斤賣附  
約定ノ金高  
但何斤ニ付何圓替

渡違約ノ訴狀

内何圓 年月日手附金トシテ  
受取濟

右約定証書ノ寫左ノ如シ

証書云云

右原告人氏名申上候云云

年月日

氏

名

住所

身分

氏

名

代書人

某御裁判所



第六號

妻離別ノ狀

妻離別ノ訴

原告人

住所

身分

氏名

印

夫 氏名 當何歳

被告人

住所

身分

氏名

印

妻 氏名 當何歳

年月日娶ル

某御役所ニ差出置候年月日ノ戸籍人別帳ノ寫左ノ如ク別帳云々

訴狀

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所

身分

氏名

印

代書人

氏名

印

前書申上候處相違無御坐候

年月日

住所

身分

原告人ノ祖父

氏名

印

母父母等

氏名

印

某御裁判所

訴訟便宜

訴訟便宜

廿三

廿五



第六號

妻離別ノ狀

妻離別ノ訴

原告人

住所

身分

氏名

夫 氏名 當何歳

被告人

住所

身分

氏名

妻 氏名 當何歳

年月日娶ル

某御役所ニ差出置候年月日ノ戸籍人別帳ノ寫左ノ如ク  
別帳云々

訴狀

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所

身分

氏名印

代書人

氏名印

前書申上候處相違無御坐候

年月日

住所

身分

原告人ノ祖父  
母父母等

氏名印

某御裁判所

氏名印



第七號

經界之爭

年月ノ日原圖 何枚ノ一

年月日寫之

住所

原告人

身分

氏名印

原告何村

淺紅色

繪圖ノ式

爭論ノ地 着色ナシ

被告何村

黃色

示公更宜

廿四



第八號 原告三人以上ナル

原告人 住所 身分 氏名  
 被告人 住所 身分 氏名  
 某ノ訴 標記云々  
 右原告人氏名申上候云々

年月日

代書人

住所

身分

氏名印

一人ニ任ルテ訴狀

前書ノ儀原告私共連名ニテ御願可申上筈ニ御坐候處病氣云云ニテ難罷出ニ付何之誰ニ總代相頼候然ル上ハ何之誰ヨリ申上候事柄並ニ御受仕候事柄共後日ニ至リ私共ヨリ異議申上間敷候爲後證與印仕候

年月日

住所

身分

氏名印

住所

身分

氏名印

住所

身分

氏名印

代書人

某御裁判所

訴訟便宜



第九號

被告八連名中脱走又ハ

某ノ訴

住所

身分

氏名

原告人

住所

身分

氏名

被告人

元住所

身分

氏名

被告人

住所

身分

氏名

被告人

右何ノ誰ハ年月日脱走致シ候段何(町村)役人  
何ノ誰ヨリ承知仕候

病死人ノルアノ訴狀

右原告人氏名申上候云云

右何ノ誰ハ年月日死亡致シ候段何(町村)役人  
何ノ誰ヨリ承知仕候

年月日

住所

身分

氏名印

代書人

某御裁判所

訴訟便宜

廿六



第十號

讓證文ヲ以テ催促スル

某ノ訴

一元金何圓

一利金何圓

合何圓

右證文ノ寫左ノ如シ

證書云云

住所

身分

原告人

住所

身分

被告人

氏名

氏名

印

印

訴狀

右讓證文ノ寫左ノ如シ

證書云云

右原告人氏名申上候云云

年月日

住所

身分

代書人

氏名印

氏名印

某御裁判所

訴訟便宜

廿七



第十號

代言人ヲ頼ム訴

某ノ訴

原告代言人

住所

身分

氏名

被告人

身分

氏名

標記云云

右原告代言人氏名申上候云云

年月日

住所

身分

氏名印

代書人

氏名印

狀

前書之儀私ヨリ御願可申上筈ニ御座候處何々ノ旨趣ニ付何之誰ニ代言相頼候然ル上ハ何之誰ヨリ申上候事柄并ニ御受申上候事柄共後日ニ至リ私ヨリ異議申上間敷候爲後證與印仕候

年月日

原告人

住所  
身分

氏名印

某御裁判所

訴訟便宜

廿八



第二十號一時假ノ代言人ヲ出テ書證

右ハ何々ノ儀私ヨリ訴出候ニ付罷出委曲申上度奉存候  
處病氣ニ付今日限何之誰ニ代言相頼候若御尋之儀同人  
ニテ御對申上兼候廉有之候ハ、私快氣次第罷出可申上  
候

住所

身分

氏名印

當日代言人

住所

身分

氏名印

住所

身分

氏名印

代書人

某御裁判所

年月日

答書表紙ノ式用紙寸法第一號  
訴狀ノ法ノ如シ

第三十號



年月日

某ノ答書

住所

身分

氏名

訴訟便宜

廿九



答書ノ式

某ノ答

被告人

住所

身分

氏名

右住所身分何之誰何々之儀訴出候ニ付今何日御呼出

之御狀拜見仕御答申上候

私儀云々  
證據ノ書類アラハ其寫ヲ記載スヘシ

右之通御坐候

年月日

住所

身分

氏名印

代書人

氏名印

某御裁判所

第四十號

對決前熟議解訟ノ

某ノ訴濟口ノ答

被告人

住所

身分

氏名

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出

之御狀拜見仕原告人ニ熟談濟方仕候趣申上候

私儀云云

年月日

住所

身分

氏名印

代書人

氏名印

訴訟便宜

三十



書答

前書被告人何之誰ヨリ申上候通熟談濟方仕候付此上  
對決ノ御裁斷不奉願候

住所

身分

氏名印

原告人

住所

身分

氏名印

代書人

年月日

某御裁判所

號五十第

對決前返濟延期ノ

某ノ訴濟口日延ノ答

住所

身分

氏名

被告人

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出  
之御狀拜見仕原告人ニ熟談之上濟方日延約定仕候段  
左之通御坐候

私儀云々

年月日

住所

身分

氏名印

代書人

訴訟便宜

卅一



約定ヲ爲シ答ル書

前書被告人何之誰申上候通熟談之上濟方日延約定仕候ニ付來何年何月何日迄御裁斷御猶豫奉願候

年月日

住所

身分

原告人

住所

身分

氏名印

代書人

氏名印

某御裁判所

第六十號

對決前他代人價ノ

被告人

住所

身分

氏名

某ノ訴何之誰ヨリ日延代償ニテ濟口之答

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出

之御狀拜見仕原告人ニ熟談之上(親族朋友)中何之誰ヨリ日延代償約定仕候段左之通御坐候

氏名印

年月日

住所

身分

代書人

氏名印

前書被告人何之誰申上候通私共ヨリ日延代償ノ約定仕候段相違無御坐候

訴訟便宜

卅二



延期ヲ約シルガ解訟ノ答書

年月日

代償人

住所

身分

氏名印

代書人

身分

氏名印

前書被告人何之誰申上候通私共承諾仕候ニ付此上對決ノ御裁斷不奉願候

年月日

原告人

住所

身分

氏名印

代書人

身分

氏名印

某御裁判所

第十七號

對決前他代人償ノ

住所

身分

氏名

被告人

某ノ訴何之誰代償濟口日延ノ答

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出之御狀拜見仕原告人ニ熟談之上(親族朋友)中何之誰ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段左之通御坐候

私儀云々

年月日

住所

身分

氏名印

代書人

氏名印

前書被告人何之誰申上候通私共ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段相違無御坐候

年月日

住所

身分

訴訟便宜

卅三



延期ヲ約シテ答書

前書被告人何之誰申上候通熟談之上何之誰ヨリ代償  
濟方日延約定仕候ニ付來何年月何日迄御裁判御猶  
豫奉願候

代書人 住所 氏名印

代書人 身分 氏名印

住所

身分

原告人

住所

身分

代書人

氏名印

某御裁判所

年月日

第十八號

外國原告人訴狀ノ

訴狀

本國住所 身分

原告人

住所身分

被告人

氏名

右原告人氏名ヨリ右被告人氏名ニ對シ當御裁判所エ  
左之通訴訟申上候

第一云々

但シ訴訟ノ根源事實ノ大略ヲ明白

第二云々

ニ認ムヘシ若其事實混交シテ長文

第三云々

ナル時ハ第一第二第三條ト之ヲ區

第三云々

別スヘシ

依之原告ヨリ御裁判所エ云々被成下度願上候事

訴訟便宜

卅四



式

但シ何等ノ處置ハ原告人ノ所願ニ候ヤ金子ノ  
拂カ其金高何程カ右判然ト認メ其他公正ノ御  
裁判ヲ願ノ趣ヲ認ムヘシ

日本地名  
年月日

原告人

氏 名花押

若シ原告人ノ代言者アル時ハ左ノ如ク加判ス  
ヘシ

代言者

氏 名花押

某裁判所長  
氏 名

諸受書式

用紙義濃紙

御受書

私共

一件御審理中ノ處來ル何日午前第何時出頭可致旨被  
仰付奉敬承候依之御受仕候以上

年月日

何縣何郡何村町身分

原告

何之某印

被告

何之某印

某裁判所  
何官何之某殿

訴訟便宜

卅五



御受書

一御裁許狀

但シ何枚

何通

右膳本御下附相成候ニ付受領仕候依之御受申上候以上

年月日

何縣何郡何町身分

何之某印

何裁判所長  
何官何之某殿

諸願書式

御召喚願

何縣何郡何町身分

被告 何某

右之者本日不參ニ付來ル何月何日午前第何時御召喚  
被成下度尤モ同日時ニハ私ニ於テモ出頭可仕候ニ付  
此段併陳旁奉願上候以上

何縣何郡何町身分

原告 何之某印

年月日

何裁判所

何官何之某殿

但シ引合人モ此例ニ同シ然レトモ其場合ニハ(本日不參)  
ノ四字ヲ除クヘシ

訴訟便宜

卅六



審判延期願

私共

一件御審理中ノ處(原告ニ於テ證據物失)有之ニ付來

何月何日迄審判御延期被成下度此段奉願上候以上

何縣何郡何町身分

原告 何之某印

何縣何郡何町身分

被告 何之某印

年月日

何裁判所

何官何之某殿

裁判執行ニ付テノ諸願書式

執行命令願

何縣何郡何町身分

原告 何之某

何縣何郡何町身分

被告 何之某

出願高

合金何百圓

內

金何拾圓

金何圓

金何圓

金何圓

原裁判請求高  
裁判後ノ利子  
初審裁判訴訟入費  
控訴裁判訴訟入費

明治何年何月何日裁判其後及ヒ証券ノ寫ハ

訴訟便宜

卅七



別紙ニ呈ス

原告奉申上候別紙御判文ノ如ク裁決ノ上已ニ確定相成タルモ被告ハ〔無謂苦情或ハ〕チ申述容易ニ執行不致候ニ付速カニ執行可致旨御命令被成下度此段奉請願候以上

年月日

原告

何ノ某印

何裁判所長

何官何之某殿

抵當公賣願

明治何年何月何日番外何十何号ヲ以テ被告ニ執行方御命令相成タル處未タ履行不致候ニ付抵當物前ニ呈シタル証券寫ニ謄記シ在ル如ク御公賣奉願上候以上

年月日

何縣何郡何町身分

原告

何ノ某印

何裁判所

何官何之某殿

訴訟便宜



身代限願

明治何年何月何日番外何号ヲ以テ被告ニ執行方御命  
令相成タル處未タ該御命令ノ如ク履行セサルニ付被  
告身代限ヲ以テ償却受ケ度候間直ニ被告身代限ノ御  
處分被成下度奉願上候以上

年月日

何縣何郡何町身分

原告

何之某印

何裁判所

何官何之某殿

公賣金ノ受書式

御受書

一金何百何拾圓

但シ何縣何郡何町何ノ某

〔抵當或ハ財  
産公賣金〕

右正ニ奉受取候ニ付受領證如斯ニ候也

何縣何郡何町身分

原告

何ノ某印

年月日

何裁判所

何官何之某殿

訴訟便宜



第四章 訴訟用印稅規則

明治十七年二月廿三日 第五號布告

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス

但明治八年(十二月)第百九拾六號布告訴訟用罫紙規則ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス  
右奉 勅旨布告候事

(別紙)民事訴訟用印紙規則  
第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス

ルモノトス

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若シハ價額ニ應シ左ノ區別ニ隨ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用ス可シ

金額	價額	同拾圓迄	三拾錢
同貳拾圓迄	貳拾錢	同拾圓迄	三拾錢
同七拾五圓迄	六拾錢	同五拾圓迄	壹圓五拾錢
同貳百五拾圓迄	貳圓貳拾錢	同百圓迄	三圓
同七百五拾圓迄	六圓五拾錢	同五百圓迄	拾圓
同貳千五百圓迄	拾三圓	同千圓迄	拾五圓
同五千圓以上ハ千圓マテ每ニ貳圓ヲ加フ	貳拾圓	同五千圓迄	貳拾五圓

第三條 人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ  
但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戶長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙貼用ヲ免スルコトアル可シ  
訴訟便宜



第四條

左ノ書類ニハ正本一通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可  
答辯書證據物寫辯駁書辯論書上申書陳述書等

證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延期ヲ請求スル願書

第五條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可  
官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其

謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其

謄本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄  
本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印  
紙ヲ貼用ス可シ

第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者  
ニ辨償ス可キモノトス

第九條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシ  
ム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ナ

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓  
訴訟便宜



以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

明治十七年二月廿三日 太政官第四號布達  
今般第五號布告ヲ以テ訴訟用印紙規則制定候ニ付印紙ノ種類定價及ヒ貼用方左ノ通之ヲ定ム

淡黑色印紙	一枚	三錢	黑色印紙	同	五錢
赭色印紙	同	拾錢	茶褐色印紙	同	五拾錢
黃色印紙	同	壹圓	青色印紙	同	五圓
橙黃色印紙	同	拾圓	綠色印紙	同	拾五圓

嬌栗色印紙 同 貳拾圓

印紙ハ訴狀其他書類ノ正本ニ貼用シ貼用者ノ印章ヲ以テ消印ス可シ

右布達候事

第五章 代官人規則

明治十三年五月十三日司法省甲第一號布達

明治九年當省甲第一號代官人規則左ノ通改正候條此旨布達候事

但該規則ニ抵觸スル從前ノ布達ハ總テ廢止タル可シ

代官人規則

第一款 總則

第一條 代官人ハ法令ニ於テ代言ヲ許サレタル詞訟ニ付テ原

訴訟便宜



告又ハ被告ノ委任ヲ受ケ其代言ヲ爲ス者トス

第二條 代言ノ業ヲ爲サント欲スル者ハ第四款ニ掲クル所ノ手續ニ依リ定式ノ試験ヲ經テ司法卿ノ免許ヲ受ク可シ

第三條 免許ヲ受ケン代言人ハ大審院及ヒ諸裁判所ニ於テ代言ヲ爲スヲ得

第四條 代言人ノ免許ヲ得ル能ハサル者左ノ如シ

- 一 未丁年者
- 二 身代限リノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
- 三 盜罪詐僞罪ニ付刑ヲ受ケタル者
- 四 國事犯ヲ除クノ外懲役並ニ禁獄一年以上ノ刑ヲ受ケタル者
- 五 官吏准官吏及ヒ公私ノ雇人

第五條 免許ヲ受ケン者ハ必ス第二款ニ掲クル所ノ代言人組合ニ入りテ其規則ヲ守ル可シ若シ一時他管ニ出テ代言ヲ爲ストキハ其地組合ノ規則ヲ遵守ス可シ

第六條 代言人新ニ免許ヲ受ケン時及ヒ他ノ地ニ轉任セント欲スル時ハ其業ヲ爲ス所ノ裁判所及ヒ檢事(檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者以下之ニ倣フ)並ニ議會長ニ其旨ヲ届ケ廢業ノ時ハ免許狀ヲ檢事ニ返納ス可シ

第七條 代言免許ハ滿一年(月ヲ以テ算フ)ヲ以テ限トシ免許料ハ金拾圓トス其業ヲ繼續セント欲スル者ハ毎年免許料ヲ納ム可シ既ニ納メタル免許料ハ廢業停業除名ノ時ト雖トモ之ヲ還付セス

訴訟便宜



第八條 新規出願ノ者ハ免許狀ヲ受ル時免許料ヲ直チニ檢事ニ納ム可シ

引續出願ノ者ハ必ス免許期限ノ盡ル前願書ニ免許料ヲ添ヘ檢事ニ差出ス可シ但右手續ヲ爲シタルトキハ期限後ニ係リ未タ免狀ノ下付有ラサルモ其儘代言ヲ爲スヲ得可シ

第九條 免許料ヲ納メサルヲ以テ免許ヲ得ス又ハ期限前ニ於テ引續願ヲ爲サスシテ免許ノ効ヲ失ヒシ者再ヒ代言ヲ爲サント欲スル時ハ新規出願ノ手續ニ循フ可シ

第十條 免許狀ヲ紛失シ又ハ氏名ヲ改メシ者ハ更ニ免許狀下付ノ願ヲ檢事ニ出ス可シ但願書ノ副本ニ檢事ノ檢印ヲ受ケ置引替免許狀下付迄ハ之ヲ以テ免許代言人タルノ證ト爲ス可シ

第十一條 代言ヲ爲スニハ必ス詞訟本人ノ委任狀ヲ受ク可シ

第十二條 代言人ノ懲罰ハ第三款ニ依テ處分ス可シ

第十三條 代言人ノ所業ニ因リ生シタル詞訟本人並ニ相手方關係人ノ損害ハ其代言人ニ於テ之ヲ償フ可シ

### 第貳款 議會

第十四條 代言人ハ各地方裁判所本支廳所轄每一ノ組合ヲ立テ議會ヲ設ケ左ノ目的ヲ以テ規則ヲ定メ契約ヲ固クス可シ但組合ハ各裁判區ノ廣狹遠近ニ依リ檢事ノ見計ヲ以テ之ヲ分合スルコトアル可シ

一 互ニ風儀ヲ矯正スル事

二 名譽ヲ保存スル事

三 法律ヲ研究スル事

四 誠實ヲ以テ本人ノ依頼ニ應スル事

五 強テ本人ノ權利ヲ捏造セサル事

訴訟便宜



- 六 妄リニ言詞ヲ變改セサル事
- 七 故ナシ時日ヲ遷延セサル事
- 八 相當謝金ノ額ヲ定ムル事

但該規則ハ必ス檢事ノ照閱ヲ經可シ其改正増補モ亦之ニ同シ

第十五條 組合毎ニ會長一名副會長一名又ハ二名ヲ毎年第一次會ニ於テ投票ノ多數ヲ以テ定ム可シ若シ投票ノ數相均シキ時ハ先キニ允許ヲ得タル者ヲ以テシ其時日相同シキ時ハ年長ノ者ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第十六條 會長ハ議會ノ管理ヲ爲シ副會長ハ會長ヲ補助シ會長差支アル時ハ之カ代理ヲ爲ス可シ其任期ハ各滿一年トス

但每期投票多數ヲ得ル者ト雖モ其職務ヲ繼續スルハ二期ヲ以テ限リトス

第十七條 第二十二條ニ記載シタル條件ヲ犯ス者アル時ハ各代言人ハ之ヲ會長ニ報告シ會長ハ之ヲ檢事ニ告發ス可シ若シ會長告發ヲ遷延シ又ハ其所犯會長ニ係ル時ハ各代言人ヨリ直チニ檢事ニ告發ス可シ

第十八條 議會ヲ開クハ毎年二次ヲ以テ定例ト爲シ其日數一次十五日ヲ過クルヲ得ス若シ己ムヲ得サル場合ニ於テ期日ヲ延サントスルカ又ハ臨時會ヲ開カントスル時ハ必ス檢事ノ認可ヲ受ク可シ但其會費ハ各代言人ニ於テ之ヲ擔當スル者ト爲ス

第十九條 會長ハ組合總員ノ名簿ヲ作リ其本貫族籍住所年齢係訟便宜



及ヒ代言免許ノ年月日ヲ記シ轉住廢業懲罰ノ事アル毎ニ其旨ヲ記ス可シ

第廿條 議會中詞訟事件ニ付參會スルヲ得サル場合ニ於テハ其旨ヲ會長ニ届出ツ可シ

第廿一條 會長及ヒ副會長ト雖トモ代言ノ職業ニ就テハ一般ノ代言人ト異ナルナシ

### 第三款 懲罰

第廿二條 代言人左ノ條件ヲ犯ス時ハ輕重ヲ量リ第廿三條及ヒ第廿四條ニ依テ懲罰ス可シ

- 一 訟廷ニ於テ現行ノ法律ヲ誹譏スル者
- 二 訟廷ニ於テ官吏ニ對シ不敬ノ所業ヲ爲ス者
- 三 訟廷ニ於テ相手方ヲ凌辱罵詈シタル者

四 詞訟ヲ激峻シタル者

五 證據ト爲ル可キ者ヲ捏造シタル者

六 他人ノ詞訟ヲ買取り自己ノ利ヲ圖ル者

七 強テ謝金ヲ前収シ又ハ過當ノ謝金ヲ貪リタル者

八 故ラニ時日ヲ遷延シ詞訟本人並ニ相手方關係人ノ妨害ヲ爲シタル者

九 議會組合ノ外私ニ社ヲ結ヒ號ヲ設ケ營業ヲ爲シタル者

十 議會ニ於テ定メタル取締規則ヲ犯シタル者

第廿三條 懲罰ノ目次左ノ如シ

- 一 罷責
- 二 停業
- 三 除名

訴訟便宜



第廿四條 所犯法律ニ該ル者ハ法律ニ依テ處斷シ仍ホ第二十  
三條ノ罰目ヲ併科スルコトアル可シ

第廿五條 譴責ハ止マ呵責シテ業ヲ停メス停業ハ一月以上一  
年以下其業ヲ停メ除名ハ代言人名簿ノ名ヲ除キ三年ヲ經ル  
ノ後ニ非サレハ復タ代言人タルヲ得ス若シ其所犯ノ情狀重  
キ者ハ終身之ヲ許サス  
第廿二條ノ懲罰ヲ受ケタル者アルトキハ其旨ヲ裁判所ノ扣  
所ニ揭示ス可シ

第四款 出願

第廿六條 代言免許ヲ願フ者ハ第廿九條ノ書式ニ倣ヒ願書ヲ  
作り現任戶長(又ハ區長)ノ奥印ヲ受ケ履歷書ヲ添ヘ其所轄  
ノ檢事ニ差出シ定式ノ試験ヲ受ク可シ

第廿七條 出願定月

二月 八月 各上半ケ月ヲ以テ限リト爲ス

第廿八條 試験ノ課目左ノ如シ

- 一 民事ニ關スル法律
- 二 刑事ニ關スル法律
- 三 訴訟ノ手續
- 四 裁判ニ關スル諸規則

第廿九條 願書及ヒ履歷書書式

代言願

本貫住所

寄留ナル時ハ其寄  
留所ヲ記入スヘシ

身分

氏名



第廿四條 所犯法律ニ該ル者ハ法律ニ依テ處斷シ仍ホ第二十  
三條ノ罰目ヲ併科スルコアル可シ

第廿五條 罷責ハ止マ呵責シテ業ヲ停メス停業ハ一月以上一  
年以下其業ヲ停メ除名ハ代言人名簿ノ名ヲ除キ三年ヲ經ル  
ノ後ニ非サレハ復タ代言人タルヲ得ス若シ其所犯ノ情狀重  
キ者ハ終身之ヲ許サス

第廿二條ノ懲罰ヲ受ケタル者アルトキハ其旨ヲ裁判所ノ扣  
所ニ揭示ス可シ

第四款 出願

第廿六條 代言免許ヲ願フ者ハ第廿九條ノ書式ニ倣ヒ願書ヲ  
作リ現任戶長(又ハ區長)ノ奥印ヲ受ケ履歷書ヲ添ヘ其所轄  
ノ檢事ニ差出シ定式ノ試験ヲ受ク可シ

第廿七條 出願定月

二月 八月 各上半ヶ月ヲ以テ限リト爲ス

第廿八條 試験ノ課目左ノ如シ

- 一 民事ニ關スル法律
- 二 刑事ニ關スル法律
- 三 訴訟ノ手續
- 四 裁判ニ關スル諸規則

第廿九條 願書及ヒ履歷書書式

代言願  
本貫住所  
寄留ナル時ハ其寄  
留所ヲ記入スヘシ

身分 氏 名



訴訟便宜

四十七

代言營業仕度ニ付御試験ノ上免許被成下度此段奉願候也

年 齡

年號月日

右  
氏名印

司法卿某殿

前書ノ通出願候ニ付奥印致候也

右戸長(又ハ區長)

氏名印

履歷書

本貫住所

寄留ナル時ハ其寄  
留所ヲ記入スヘシ

身分職業

氏名

年 齡

一地名身分何某ニ隨ヒ何年ヨリ何年迄何學修行何某ニ隨ヒ何

技術ヲ修行

一何年月日何(官職)ニ任シ何年月日(免官辭職)

一何年月日何々ノ廉ヲ以テ何應ヨリ賞典ヲ受ク

一何年月日何々ノ犯罪ニ依リ何ノ刑ヲ受ク

一何年月日身代限ノ處分ヲ受ケ何年月日辨償ノ義務ヲ終フ

右之通ニ御座候也

年號月日

氏名印

代言引續願

免許狀紛失氏名改撰ノ時  
ノ願書モ此式ニ做フヘシ

引續代言營業仕度ニ付免許狀御下付被下度此段奉願候也

本貫住所

寄留ナル時ハ其寄  
留所ヲ記入スヘシ

訴訟便宜

四十八



年月日

免許代理人  
氏名印

司法卿某殿

第六章 所屬代理人規則

明治十四年十二月二日司法省甲第八號布達

大審院諸裁判所屬代理人規則別紙ノ通相定俟條此旨布達候事

所屬代理人規則

第一條 治罪法中所屬代理人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所  
所在ノ地ニ住居スル免許代理人ヲ云フ

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代理人辨護人ハ正當  
ノ事由ヲ証明スルニアラサレハ之ヲ辭スルコト得ス

第三條 代言又ハ辨護受任中ハ代言免許滿期ニ至リ引續營業  
セズ又ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至ル迄其代言辨護ヲ擔  
當スヘシ

第四條 代言又ハ辨護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ關  
シコト得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代理人辨護人ヲ選任シタル場合  
ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當スヘシ  
總テ謝金ニ付テハ出訴スルコトヲ許サズ

第七章 代人規則

明治六年六月十八日第二百拾五號布告  
人民一般商業及ヒ其他ノ事ニ因リ代人ヲ以テ契約取引等致シ  
候規則別紙ノ通被定候條此旨相達候事

訴訟便宜



### 代人規則

第一條 凡ソ何人ニ限ラズ己レノ名義ヲ以テ他人ヲシテ其事ヲ代理セシムルノ權アル可シ

但本人幼年等ニテ其事理ヲ辨シ難キトキハ其後見人及ヒ親族ノ者協議ノ上代人ヲ任スルヲ得ヘシ

第二條 凡ソ他人ノ委任ヲ受ケ其事件ヲ取扱フ者ハ代人ニシテ其事件ヲ委任スル者ハ本人ナリ故ニ代人委任上ノ所行ハ本人ノ關係タル可シ

第三條 凡ソ代人ハ心術正實ニシテ二十一歳以上ノ者ヲ撰ム可シ

第四條 代人ハ總理代人部理代人ノ別アリ總理代人ハ其本人身上諸般ノ事務ヲ代理スル者ニシテ部理代人ハ特ニ其委任

スル部内ノ事務ヲ代理スルヲ得ルモノトス

第五條 凡ソ本人ヨリ代人ヲ任シ他人ト契約取引等ヲ爲ント欲スル時ハ必ズ實印ヲ押シタル委任狀ヲ與フ可シ

但シ其家業取扱フ場所ニ於テ通常ノ事務ヲ取扱ハシムルノ類ハ別段委任狀ヲ與フルニ及ハス

第六條 委任狀ハ總理代人又ハ部理代人タル事及ヒ其委任シタル權限ヲ明白ニ記載ス可シ

第七條 委任狀書式左ノ通

(拙者拙者共)儀某ノ事件ニ付何誰ヲ以テ(總理代人部理代人)ト定メ拙者ノ名義ニテ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

一何々ノ事(但權限ノ次第ヲ分條記載ス可シ)

訴訟便宜



右代理ノ委任狀仍テ如件

年號何年何月何日

住所身分

姓

名

印

後見人等ハ住所身分何誰  
ノ後見人何誰ト記ス可シ

第八條 代人ヲ任スルノ期限ハ豫メ規定シ難キモノト雖モ其

本人幼弱疾病事故等ニテ長シ委任セントスル時ハ其地方ニ

新聞紙アラハ之ニ記入セシメ世上ニ公布ス可シ

明治十七年一月二十四日太政官第壹號布達

明治十三年五月 司法省甲第貳號布達左ノ通改正ス

詞訟又ハ勸解ニ付已ムヲ得テ代人ヲ出サントスル者ハ親屬又

ハ相當ノ者ヲ撰ミ管轄裁判所ノ許可ヲ受ク可シ但代人タル者

同時ニ二人以上ヨリ二件以上ヲ受任シ其他不適當ノ所爲アリ

ト認ムル時ハ裁判所ニ於テ之ヲ差止ムルコトアル可シ  
右布達候事

代人許可願

何縣何郡何町身分

何之某

右ハ今般何縣何郡何某ヨリ係ル〔訴訟〕之事件自身出  
頭可仕之處〔病氣或ハ〕〔勸解〕  
〔何々事故〕ニテ出頭難相成依テ前書何之  
某ハ代人依頼致度候間何卒御許可被成下度此段奉願  
上候以上

年月日

何縣何郡何町身分

何之某印

某裁判所長  
判事何之某殿

訴訟便宜



上申書

- 一 現今保釋及ヒ責付中ニハ無之候事
  - 一 現今身代限ノ處分中ニハ無之候事
  - 一 現今本件ノ他ニ受任ノ件無之候事
  - 一 詐偽及ヒ盜罪等ノ刑罰ヲ受ケルニ無之候事
  - 一 代言停業中及ヒ代言除名等ノ處分ヲ受ケタルニ無之候事
  - 一 滿二十年以上タルニ付未丁年ニハ無之候事
- 右之通相違無之候以上

年月日

何縣何郡何町身分

何之某印

某裁判所長  
判事何之某殿

第八章 訴訟入費規則

明治九年四月廿二日司法省甲第五號布達

訴訟入費償却規則左ノ通改正候條此旨布達候事

第一條 訴訟其外書類認料 一枚廿四行廿字詰ニ付廿錢  
但一枚以下モ同價

右定限

第一 原告人ノ訴狀ノ正本副本

第二 被告人ノ答書ノ正本副本

第三 訴狀亦ハ答書中ニ記載シ難キ證據ノ書類ノ寫

第四 審判中ニ原告又ハ被告ヨリ差出シタル證據ノ書類ノ寫

寫

第五 訴訟中訴狀ニ關係スルノ事件ニ付原被雙方往復ノ文

書

訴訟便宜



第二條 証人並ニ引合人差添人手當 一日ニ付五拾錢

但シ八里以外ヨリ罷出止宿ノ者ハ二十五錢ヲ増ス  
右定限

裁判所ニ出席ヲ爲シタル日

第三條 証人並ニ引合人差添人滿八里以外ノ地ヨリ來リ滯留  
中ノ手當一日ニ付五拾錢

第四條 証人並ニ引合人差添人旅費 滿八里ニ付拾錢歸路モ  
全斷

但シ八里ヲ越レハ每滿一里ニ付拾錢  
右定限

第一 兩線ノ官道甲路ハ遠ク乙路ハ近キ時ハ現ニ甲路ヲ經  
ルト雖モ乙路ヲ以テ計算スヘシ

第二 本條ハ日本國管内ヲ通行スル者ノ爲メ設ク

第五條 原告人又ハ被告人直ナル者ノ手當 一日ニ付五拾錢  
但八里外ヨリ罷出止宿スル者ハ二拾五錢ヲ増ス

右定限

第三條ニ同シ

第六條 原告人又ハ被告人直ナル者八里以外ノ地ヨリ來リ滯  
留中手當一日ニ付五拾錢

第七條 原告人又ハ被告人直ナル者旅費 滿八里ニ付拾錢歸  
路モ全斷

但八里ヲ越レハ每滿一里ニ付拾錢

右定限

第四條ニ同シ

訴訟便宜



第八條 通辨雇料

一日ニ付三圓

右定限

第二條ニ同シ往復旅費ヲモ定額ノ通計算スヘシ

第九條 翻譯料

一枚ニ付十六行十五字詰四圓  
但シ一枚以下モ同價

右定限

第一條ニ同シ

第十條 測量繪圖認料

右定限

第一 長三百間ニテ盡ル時ハ 西ノ内一枚ニ付拾錢

百間ニ付一尺ノ割

第二 長六百間迄 西ノ内一枚ニ付拾錢

百間ニ付五寸ノ割

第三 長千二百間迄

全

拾四錢

百間ニ付三寸ノ割

第四 長六千間迄

全

拾七錢

百間ニ付二寸ノ割

第五 長一萬二千間迄

全

貳拾錢

百間ニ付一寸ノ割

第六 長一萬二千間以上

全

廿四錢

百間ニ付五分ノ割

一測量ニ及ハサル見取繪圖ハ間數ノ長短ヲ論セス大凡見積ヲ

以テ簡便ニ圖引致ス可シ

但シ西ノ内一枚ニ付拾錢

第十一條 使賃 滿一里毎ニ拾錢一里未滿ハ五錢

訴訟便宜

五十四



但シ歸路モ全斷

右定限

- 第一 裁判所ニテ示談中雙方承諾ノ上原告被告雙方又ハ一方ノ者ヨリ遣シタル使賃
- 第二 裁判所ニテ示談中原告又ハ被告一方ノ者掛裁判役ノ檢印ヲ經タル使賃
- 第三 原告又ハ被告一方ノ者出訴中違約シテ出席セサル時掛裁判役ノ檢印ヲ經テ違約ヲ責ムル使賃
- 第四 原告被告雙方ノ爲メ又ハ一方ノ爲メニ双方又ハ一方ノ者ノ申立ニ因リ裁判所ヨリ臨時ニ遣ハシタル使賃
- 第十二條 郵便並ニ電信料 定價

右定限

第十一條ニ同シ

第十三條 身代限ヲ爲スニ付裁判所又ハ縣廳又(町村)役場ニ納ムヘキ評價人監定人等ノ日雇賃金ノ諸入費及ヒ身代限諸雜費 臨時計算ヲ以テ定ム

右ハ前數條ノ入費ニ先ツテ取立ツ可シ

甲第六號明治九年四月廿九日司法省布達

本年當省甲第五號布達改正訴訟入費償却規則中第三條第六條ノ儀ハ追テ相達候迄執行及ハス候條此旨布達候事

第九章 出訴期限規則

第三百六十二號明治六年十一月五日布告

金穀貸借ヲ始メトシテ物品賣買ヨリ外種々ノ取引等ニ至ルマテ雙方ノ者互ニ受取渡ノ期限ヲ定メ條約ヲ結ヒ置タルニ一

訴訟便宜



方ノ者其條約ヲ破リタルトキハ早速裁判所へ出訴イタシ不苦  
候處延期ノ勘辨ヲ加へ出訴ヲ見合候者モ有之是亦慈愛ノ人情  
ニテ尤ノ事ニ付早速出訴イタシ候トモ亦ハ勘辨ヲ加へ候トモ  
人民ノ自由ニ任セ出訴期限ノ法則不相定候處右期限勘辨中數  
歲月ヲ過去リ出訴致シ候時ハ貸方借方請人証人ノ内死亡又ハ  
轉住又ハ失踪等ノ者モ有之事理曖昧ニ立至リ裁判上不都合不  
少候ニ付訴訟ノ事柄ニ因リ夫々出訴ノ期限ヲ定候條來明治七  
年一月一日ヨリ後ニ結ヒタル條約期限ニテ右出訴期限過去リ  
出訴セサル者ハ自分條約ヲ取消シタル者ト看做シ受取ルヘキ  
者ハ受取ヘキ權利ヲ失ヒ引渡スヘキ者ハ引渡スヘキ義務ヲ免  
レ候事

### 出訴期限規則

#### 第一條

- |                  |           |
|------------------|-----------|
| 一 學藝ノ授業料         | 一 旅籠料     |
| 一 運送賃            | 一 飲食料     |
| 一 手附金            | 一 商人互ノ賣掛金 |
| 一 職人ノ手間代金        | 一 日雇人ノ給料  |
| 一 請負金            |           |
| 一 芝居等ノ木戸錢又ハサシキ錢等 |           |
| 一 男女藝者ノ揚代金       |           |
| 右ハ六ヶ月限           |           |

#### 第二條

- |                    |
|--------------------|
| 一 醫師ノ診診及藥料         |
| 一 授業師ヨリ門弟ニ給與シタル飲食料 |

訴訟便宜



- 一商人ヨリ商人ニ非ル者ヘノ賣掛代金
- 一一ヶ年期迄ノ奉公人給料
- 右ハ一ヶ年限

第三條

- 一期限ヲ定メタル貸付米金及ヒ利息アレハ其利息
- 一小作米金
- 一期限ヲ定メタル預金及利息アレハ其利息
- 一敷金
  - 一家屋及ヒ土地ノ借貸
- 一證據金
  - 一養育料
- 一物品ノ借貸又ハ損料
  - 一七年期迄ノ奉公人給料
- 一期限ナキ年金及一生涯ノ年金
- 右ハ五ヶ年限

第四條

條約証書中期限ナキ者ハ出訴ノ日ヲ期限ト看做シ何時出訴致シ候テモ苦カラサル事

第五條

従前取結ヒタル條約ニテ明治六年十二月三十一日以前ニ條約期限ノ切レタル事件ハ右明治六年十二月三十一日ヲ條約ノ期限ト看做スヘシ又従前取結ヒタル條約ニテ其期限ノ明治七年一月一日後ニ及フ事件ハ條約期限ノ切レタル翌日ヨリ第一條第二條第三條ノ種類ニ從ヒ出訴ノ期限ヲ起算致スヘキ事

但明治五年壬申第三百號布告第三條ニ定メタル規則ハ格別ナリトス

第十章 利息制限規則

訴訟便宜



明治十年九月十一日第六十六號布告

利息制限法左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムヘシ

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高チ定メサルトキハ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ラヌ百分六(六分)トス

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者アルモ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フルモハ債主ヨリ債主ニ對シ若シテ償金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトアルモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

第十一章 使丁取締規則

明治十四年十二月五日司法省丁第廿六號達

使丁規則別冊之通相定候條明治十五年一月一日ヨリ施行可致此旨相達候事

訴訟便宜

五十八



使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達セシムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス使丁取締ハ一人トス但場所ニヨリ二人以上ヲ命スルコトアルヘシ

第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ミ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受ルモノトス使丁ノ人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受ンヘシ

第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フヘシ

第四條 使丁ハ送達ヲナス時裁判所ノ鑑札ヲ帶行スヘシ

第五條 送達ヲ爲スニハ其法律規則ニ從フヘシ

第六條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付代人トナリテ訟庭ニ出

ルコトヲ許サス

第八條 送達ノ事ニ關シ他ニ損害ヲ被ラシメタルキハ使丁取締ハ其償ヲ擔當スヘシ

但使丁ノ過失懈怠ニヨルキハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 送達賃錢ハ地方ノ便否ニ從ヒ書記局ニ於テ適宜其定限ヲ立ツ可シ

但シ送達書ニ賃錢ノ高ヲ附記ス可シ

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ルモノヨリ之ヲ拂フヘシ

訴訟便宜



第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之ヲ拂フヘシ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲナスヘシ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フヘキ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出スヘシ

第十五條 使丁取締及使丁此規則ニ違背シタル時裁判所ノ書記局ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 貳拾圓以下ノ違約金ヲ納メシムヘシ

二 解職セシムルコト

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムルコト

第十六條 使丁取締タルニハ其ノ裁判所所在地ニ家屋ヲ有シ満二十一歳以上ノ者ニシテ書記局ノ試験ヲ經ルコトヲ要ス使丁取締タルニハ身元保証トシテ金五拾圓以上ノ格價アル公債証書地券又ハ銀行其他官許アル株券証書ヲ書記局ニ納ムヘシ

但此保証金ハ解職時下戻スヘシ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲スヘシ但書記不足ナルトキハ雇ヲ以テ之ニ充ツ可シ

試験科目ハ左ノ如シ

一 使丁規則

二 請負郡村ノ地名又ハ里數

三 普通書簡ノ書類

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限リノ處分ヲ受ケ未タ辨償ヲ終ラサル者ハ使丁取締又ハ使丁タルコトヲ

訴訟便宜



許サス

第十二章 地所質入書入規則

明治六年一月十七日第十八號布告

先般田地永代賣買被差許候ニ付自今質入書入致シ候節ハ左ノ規則ノ通可相心得候事

地所質入書入規則

第一條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返済スヘキ證據トシテ貸主(金主)ニ地所ト證文トテ渡シ貸主其作徳米ヲ以テ貸高ノ利息ニ充候テ地所ノ質入ト云フ

第二條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返済スヘキ證據トシテ貸主(金主)地所引當ノ證文ノミテ渡シ借主ノ作徳米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利息ニ充候テ書入ト云フ

第三條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返済スヘキ證據トシテ貸主(金主)ニ地所引當ノ證文ノミテ渡シ借主ヨリ其利息トシテ米又ハ金ヲ拂候テモ又書入ト云フ

第四條 地所ヲ書入ニ致シ候節ハ地券ヲモ相渡シ可申其年期ノ儀ハ三ヶ年ヲカキル可シ尤モ三ヶ年以下期限取極候儀ハ勝手タルヘシ且年限取極候廉ハ判然證文面ニ記載致シ置可申事

但書入ノ儀ハ地券ヲ相渡スニハ及ハス其年限長短共本文ノ限リニアラスト雖モ雙方相對トテ取極候年限ハ本文同様證文面ニ記載致シ置可申事

第五條 質入又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金穀ヲ返サスシテ地所ヲ引渡候節ハ舊地主ヨリ金主ヘ可引渡訴訟便宜



旨別紙ニ相認メ其地ノ戸長加印ノ上金主ヨリ地券相添人確  
認ノ証ヲ可願出事

第六條 質入ノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致等ニ付テハ地  
租諸役トモ總テ金主ニテ可相勤事

但其段管轄廳へ届出證書可差出事

第七條 書入ノ地所ハ地主ニテ耕作致シ候儀ニ付地租諸役ト  
モ無論ニ地主ヨリ可相勤事

但管轄廳へ届出ルニ不及候事

第八條 管轄違ノ者或ハ同管轄ト雖モ懸隔ノ地所ヲ質ニ取リ  
候節ハ其現地ノ村町へ金主ノ名代人相定置其地租諸役トモ  
差支無之様可爲相勤事

第九條 質入又ハ書入證文ニハ必ス其村町戸長ノ奥書証印ヲ

取ル可シ其町村戸長ノ役場ニハ奥書割印帳ヲ備へ置キ證文  
ノ奥書割印ヲ願出ルトキハ帳面ト證文トニ番號ヲ朱書シ割  
印ヲ押シ奥書ヲ爲ス可シ若シ奥書割印ナキ證文ハ質入又ハ  
書入ノ證據ニハ不相成ニ付右證文ヲ以テ訴出ルニ於テハ負  
債主財産分散ノ時債主他ノ債主ニ對シ先キ取リノ特權ヲ失  
ヒ獨リ質入又ハ書入ナキ金穀貸借ノ處分ヲ致ス可ク事

但戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長奥書調印スヘシ

第十條 一箇ノ地ヲ二重三重ニ書入候儀ハ不相成候得共若シ  
第一番ノ金主へ引當ニ入置候事ヲ第二番ノ金主承知ノ上ニ  
テ地所代價ノ餘分ヲ見込又其地所ヲ引當ニ借添へ致シ候儀  
ハ不苦尤借主身代限ノ處分ニ相成候節ハ右地所糶賣ノ代金  
ヲ以テ第一番ノ者へ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二



番ノ者へ元利ノ金數ヲ引渡第三番以下右ニ準シ引渡申ス可  
シ若糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主へ元利ノ金數ヲ引  
渡シ其餘金第二番ノ金主へ引渡スへキ元利ノ金數ニ不足ス  
ル時ハ其不足ノ分ヲ償フコト並ニ第三番以下ノ金主ニ償フコ  
トハ平常引當ナキ債主ニ身代限償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代  
價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡可申事

但第二番ノ金主へ受取候證文へハ地所代價ノ餘分ヲ見込  
借添候旨ヲ書載セ可申事

第十一條 地主ハ勿論地券ノミナリトモ外國人へ買賣質入書  
入等致シ金子受取又ハ借受候儀一切不相成候事

第十二條 質入年季中天災ニテ地所流亡等其他ノ全形ヲ失フ  
ニ至ルトキハ地券ハ消滅スル理ニ付貸主ヨリ借主ニ對シ外

地所又ハ物品ヲ代リ質ニ差入レサセ証文書替ヲ求ルコト得  
ヘシ若シ代リ質ニ差入ルヘキ地所物品等コレナキハ訴訟  
ノ末身代限リノ處分ニ及フヘシ又池成野地成等ニ變換シ或  
ハ闕崩等ノタメニ其地ノ幾分ヲ失フキハ變換ノ模様及殘存  
ノ地ハ貸金數高ノ償ヲナスニ足ラサルト見込ム場合ニ於テ  
ハ貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ増質ニ差入サセ証  
文書換ヲ求ルコト得ヘシ若シ増質ニ差入ヘキ地所物品等無  
之時ハコレ亦訴訟ノ末身代限ノ處分ニ可及事  
但貸主借主相對示談ハ格別ノ事

第十三條 質入ノ地所年季中天災ニ因リ荒蕪ト相成ハ貸主ハ  
金主ヨリ起返ノ見込ヲ定メ借主(地主)承諾ノ證書ヲ取リ  
其管轄へ可願出尤入費ハ借主ヨリ償フ可キ事

訴訟便宜



但借主起返ノ入費ヲ出ス事能ハサル時ハ証書ヲ以テ其地  
所ヲ貸主ニ引渡シ可申尤相對示談ノ處置ハ格別ノ事

第十四條 當今質入又ハ書入ニ致シ置年季中ノ分ハ總テ前文  
規則ニ照準シ當七月限リ証文相改可申事

第十五條 是迄質入書入ニ致シ置候分ハ前約ノ年季据置不苦  
尤証文面等前文規則ニ觸レ候廉ハ總テ相改可申事

第十六條 從前取結ヒタル質入書入ノ約定ニテ明治六年七月  
三十一日前ニ期限ヲ過去リタル分ニテ債主ニ於テ貸金返濟  
方ニ付延期ノ勘辨ヲ加フル者ハ來十月三十一日マテニ其地  
所所管ノ戶長役場へ届出地所質入書入規則第九條ニ準シ與  
書割印ヲ受クヘシ若シ右日限内與書割印ヲ受ケヌシテ後日  
其証書ヲ以テ訴訟ニ及フトキハ質入書入ノ證據ニハ相立サ

ルニ付裁判上糶賣分配ノ序ハ先取ノ權利ヲ失ヒ質入書入ナ  
キ貸借同様ノ處分ニ及フヘキ事

地所質入書入証書ノ式

地所質入借用金証



一金何百圓也

但シ何年何月何日返金ノ期

此質地田合反別何反何祇何步  
此地價金何百何拾圓

右ハ今般金圓費用出來ニ付頭書之地所別紙地券狀相  
添賣殿へ質地ニ差入前書金圓正ニ借用致シ候處確實  
也然ル上ハ期限中租稅其他出費等ニ至ル迄賣殿ヨリ  
御收納可被成候若シ期日難受戻節ハ右地所賣拂返金

訴訟便宜



候歟又ハ該地貴殿へ相渡濟方可致候若シ其期ニ至リ  
本人他行スルカ其他事故有之差支ヲ生スル時ハ保証  
人ニ於テ本人ニ代テ所置シ貴殿へ毫モ御損害相掛ケ  
間敷候依之後日ノ証トシテ此証差出置候也

年月日

何縣何郡何町住

負債主 何ノ某印

何縣何郡何町住

保証人 何ノ某印

何郡何ノ地

何ノ某殿

地所書入借用金証書

印紙  
一金何百何拾圓也

但利息年何割

此抵當畑地何町何反何畝何步

此地價金何百圓

右ハ無據要用ニ付前記之通拙者所有地所ヲ書入抵當  
ト爲シ頭書ノ金圓借用致候處實正也而シテ返濟期日  
之儀ハ明治何年何月何日限リ元利取揃聊無相違返金  
可致候萬一期日ニ至リ返金難相成節ハ抵當ノ地所賣  
却之上其代金ヲ以テ皆濟可致尤右抵當ハ第一號之書  
入ニテ他ニ掛リ合等一切無之者勿論賣拂之上借用金



元利不足相立候歟又ハ本人他行其他何様ノ事變出來  
返濟相滞候共本人ニ不拘悉皆保証人引請辨償シ貴殿  
～毫モ御損毛相掛申間敷候爲後日確証トシテ各姓名  
自記調印ノ上此証書差入申處如件

何縣何郡何村町

負債主 何之某印

何縣何郡何村町

証人 何之某印

何地 某殿

界紙ニテヨロシ

小作証書

何縣何郡何村何番ノ地

一田 或ハ畑何反何畝何步

此小作 米或ハ金若干

右貴殿御所持ノ田當明治十何年何月ヨリ同十何年何  
月迄何年期正ニ預リ拙者小作致候處實正也然ル上ハ  
前記ノ通期日聊無相違収納可致候萬一相滞候節ハ小  
作地御引上可被成候且小作金滞候分悉皆証人引請辨  
納致シ貴殿へ聊モ御損毛相懸申間敷候爲後日此証書  
差入候也

訴訟便宜



何縣何郡何町  
 小作人 何之某印  
 何縣何郡何村  
 證人 何之某印  
 何地之某殿

第十三章 建物書入質規則

明治八年九月三十日第四百四十八號布告

諸建物書入質規則別紙ノ通相定候條來ル十二月一日ヨリ施行  
 可致此旨布告候事

建物書入質規則

第一 金穀ノ借主又ハ預リ主ヨリ返濟スヘキ証據トシテ(貸主預ケ主)ニ對シ引當ト爲ス所ノ建物圖面ト證文トニ戶長ノ公証ヲ受ケタル者ヲ(貸主預ケ主)ニ渡シ置キタルヲ建物ノ書入質ト云フ

第二 書入質ト爲ス建物自身所有ノ地所ニ建テ在ルトキハ書入質證文ニ自身持地ノ建物ナルコトヲ記入スヘシ又借地ニ建テ在ルトキハ書入質ヲ爲スモノ其地主ニ請ヒ其地主チシテ貸地タルコトヲ証スルノ與書ヲ爲サシムヘシ若シ借地ノ建物ニシテ地主ノ與書ナキ証文ハ書入質ノ效ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做スヘシ

但シ官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所屬官廳ニ請ヒテ其貸

訴訟便宜



地タルコトヲ証スルノ奥書ヲ受クヘシ

第三 金穀ノ(貸主預リ主)ヨリ建物引當ノ証文建物ノ圖面ト  
チ建物ノ在ル地ヲ管轄スル戸長役場ニ差出シ戸長ノ奥書割  
印ヲ受クルコトヲ公証ヲ受クルト云フ

第四 建物書入質ノ証文ニ添フタル圖面中ニ書入質ト爲ス所  
ノ建物ノ圖ハ朱引朱字ト爲シ書入質ノ外ナル建物ノ圖ハ墨  
引墨字ト爲ス可シ(第一號書式及ヒ第二號書式ヲ見合スヘ  
シ)

第五 戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ヲ備ヘ置キ証文ノ  
奥書割印ヲ願出ル時ハ其大旨ヲ帳面ニ記入シテ而シテ帳面  
ト証文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ奥書ヲ爲シ圖面ニモ同  
シ番號ヲ朱書シ割印ヲ押スヘシ若シ戸長不在ノ節ハ其旨ヲ

記シ副戸長奥書割印ス可シ

第六 建物ヲ以テ金穀借用又ハ預リノ引當ト爲シタル証文ニ  
テ前條ノ規則ニ背キ公証ヲ受ケサル者ハ書入質ノ效ナキニ  
付書入質ナキ(借用預リ)証文ト看做ス可シ

第七 此規則施行以後建物書入質ノ借用証文又ハ預リ証文ニ  
ハ必ス返済ノ期限ヲ定ムヘシ若シ其期限ヲ定メサル者ハ書  
入質ノ效ナキニ付書入質ナキ(借用預リ)証文ト看做スヘシ

第八 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借用  
金穀又ハ預リ金穀ニテ返済期限ノ定メナキ証文ヲ所持スル  
者ハ明治九年二月廿八日迄ニ金穀(借主預主)又ハ其相續人  
ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ改ム可シ若シ(借  
主預主)又ハ其相續人証文ヲ改メサルキハ明治九年四月卅



日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フヘシ  
但明治九年四月卅日ヲ以テ訴人發途ノ期ト定メ其訴人ノ  
住所又ハ寄留ノ地所ト裁判所トノ距離每八里ニ一日ノ猶  
預ヲ與フ

第九 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀  
借用証文又ハ預リ証文ヲ所有スル者ハ返濟滿期ニ至ルト至  
ラサルトニ論ナシ明治九年二月廿八日迄ニ金穀(借主預リ  
主)又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ  
改ムヘシ若シ(預リ主借リ主)又ハ其相續人証文ヲ改メサル  
キハ明治九年四月卅日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所  
ニ訴フヘシ

但書前同斷

第十 建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ訴狀  
ヲ受取タルキヨリ三日内ニ裁判所ヨリ被告人ノ建物ノ在ル  
地ノ戸長ニ對シタル報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ戸長ニ送  
達セシムヘシ右ノ報知狀ニハ何(府縣)管下(住居寄留)何某  
ノ訴訟ニ因リ何大區何小區何番地ノ建物ヲ書入質ト爲ス証  
文ニ公証スルコトヲ差留ムル旨ヲ記載スヘシ而シテ其訴訟落  
着ニ至リシ時ハ公証ノ差留ヲ解シコトヲ速ニ戸長ニ報知ス  
ヘシ

第十一 第八條及ヒ第九條ノ規則ニ背キ明治九年五月一日以  
後ニ至リ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ  
金穀(借用預リ)証文ヲ所有スル者ハ書入質ノ效ナキニ付書  
入質ナキ(借用預リ)証文ト看做スヘシ

訴訟便宜



第十二 一棟ノ建物ヲ二重二重ニ書入質ト爲スコトハ嚴禁ナ  
レトモ若シ第一番ノ金主ヘ書入質ト爲シタルコトヲ第二番ノ  
金主承諾ナレハ建物代價ノ餘分ヲ見込ニ又其建物ヲ書入質  
ニ借添ト爲スコトヲ得ヘシ尤借主身代限ノ處分ニ至ルキハ右  
建物糶賣ノ代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其  
餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右  
ニ準シ引渡スヘク若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主  
ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元  
利ノ金數ニ不足スルトキハ其不足ノ分ヲ償フコトハ平常書入  
質ナキ貸主ニ身代限ノ償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内  
ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡スヘシ  
但第二番ノ金主ニ渡シ置ク書入質ノ証文ニハ建物代價ノ

餘分ヲ見込ニ借添タル旨ヲ書載スヘシ

第十三 書入質ト爲シタル建物焼失流亡等ニ至リシ時ハ建物  
ノ所持主又ハ代理人ヨリ遅クとも七日内ニ其趣ヲ書面ニ記  
シ戸長役場ニ届出ツヘシ戸長役場ニ於テハ建物書入質記載  
帳ノ朱書番號ニ引合セ朱筆ヲ以テ點合ヲ爲シ其傍ニ焼失流  
亡等ノ趣ヲ略記シ年月日ヲ記シ戸長ノ實印ヲ押スヘシ(第  
三書式ヲ見合スヘシ)

第十四 書入質ノ建物焼失流亡等ニ至リシトキハ貸主ヨリ借  
主ニ對シテ代リ質ヲ受取ルコトヲ求メテ爲スコトヲ得ヘシ若シ借  
主代リ質ヲ出スコトヲ肯ハス又ハ出シ能ハサルトキハ借用金  
數返濟期限未滿内ト雖モ貸主ヨリ借主ニ對シテ元利返濟ヲ求  
ルノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

訴訟便宜



第一号書式(美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ全シキ紙ヲ用ユヘシ)

明治何年何月何日書入質  
何大區何小區何番地建物

第一番  
平長屋  
何坪

第二番  
土藏  
何坪

第三番  
三階造  
本屋  
何坪

何府何大區何小區何番地  
住居  
寄留

建物持主

何某印

何某殿

建物ノ圖ヲ引クニハ紙ノ上下左右トモ點線ノ外壹寸ヲ明  
ケ置クヘシ譬ヘハ圖ノ如キ朱引ノ建物ヲ書入質ト爲スル  
ハ第一番ヨリ第三番マテ合三棟ヲ書入質ト爲スルヲ証文  
ニ記入シ圖面ト共ニ質取主ニ渡シ置クヘシ但シ圖面ノ寫  
壹枚ヲ戶長役場ニ出シ置クヘシ

第二號書式(若シ壹枚ノ紙ニテ狹キルハ何枚モ繼キ合セ繼目  
ノ裏ニ繼目ノ印ヲ押スヘシ)

明治何年何月何日書入質

何大區何小區何番地建物

第一番  
平長屋  
何坪

訴訟便宜









印紙

抵當書入借用金証書

一金何拾圓

但ノ利息年何割

此抵當何々

右無據要用ニ付拙者所持之何々前書ノ通抵當トナシ  
頭書ノ金額借用致シ候處確實也且返濟之儀ハ明治何  
年何月何日限リ元利取揃聊無相違返金可致候若期日  
ニ至リ相滞候節ハ抵當賣拂其代金ヲ以皆濟可致候御  
指揮ニ任セ決テ異論申間敷若賣拂ノ上不足相立候歟  
又ハ本人他行其他何様之事故出來候共本人ニ不拘保

証人悉皆引請辨金シ貴殿へ毫モ御損毛相掛申間敷爲  
後日確証トシテ各姓名自記調印之上此証書差入申處  
如件

何縣何郡何町

借用人 何之某印

何縣何郡何村

保証人 何之某印

年月日

何地

何某殿

訴訟便宜



建物書入借用金証書

印紙

一金何圓也

但利息年何割

此抵當建家

壹棟造作付

土藏

二棟

右ハ無據要用ニ付拙者所持之建物ヲ書入抵當トナシ  
頭書之金圓借用致候處實正也而シテ返濟期日之儀ハ  
明治何年何月何日限リ元利取揃聊無相違返還可致候  
若シ期日ニ至リ返金難相成節ハ抵當ノ建物賣拂其代  
金ヲ以皆濟可致候尤右抵當ハ第一號之書入ニテ他ニ  
掛リ合等一切無之ハ勿論賣拂之上借用金元利ニ不足

相立候歟又ハ本人他行或ハ燒失等其他何様之事變出  
來返濟相滞候共本人ニ不拘悉皆保証人ニ引受辨償シ  
貴殿へ少モ御捐毛相掛申間敷爲後日確証トシテ各姓  
名自書調印シ此証書差入申處如件

何縣何郡何町

負債主 何ノ某印

何縣何郡何町

保証人 何ノ某印

年月日

何ノ地

何ノ某殿

訴訟便宜



建家賣渡証書

何縣何郡何村何番地

一建家

何棟

但シ造作附



此賣渡代金何百何拾圓

右ハ今般拙者所持之建家示談ノ上貴殿へ賣渡シ書面之代金保証人立會正ニ請取御成規之手續ヲ經テ建物引渡シ候處實正也然ル上ハ右建物ニ付自他故障等決テ無之ハ勿論ニ候ヘトモ萬一他ヨリ妨碍等申立候者有之節ハ悉皆保証人ニ於テ處辨シ貴殿へ聊御迷惑相

掛申間敷爲後日此証書差入申處如件

年月日

何縣何郡何村町

賣渡人 何之某印

同縣同郡何村町

保証人 何之某印

何某殿

○第十四章 土地賣買讓渡規則

明治十三年十一月卅日第五十二號布告

土地賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條此旨布告候事

但明治八年(六月)第百六號布告并同年(十月)第百五十三

訴訟便宜

七十五



號布告廢止候事

土地賣買讓渡規則

第一條 凡ソ所有ノ土地ヲ賣渡シ又ハ讓渡サント欲スル者ハ  
(賣渡讓渡)證文ニ地券ヲ添ヘ其地戶長役場ニ差出シ奧書割  
印ヲ受ケ之ヲ買受人又ハ讓受人ヘ附與スヘシ

但一筆ノ土地ヲ分割シテ奧書割印ヲ受ケント欲スル者ハ  
其分界及坪數等ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第二條 戶長役場ニ於テハ豫メ土地賣買讓渡奧書割印帳ヲ備  
置キ奧書割印ヲ請フ者アレハ地所質入書入奧書割印帳ヲ見  
合セ登記ナキニ於テハ(賣渡讓渡)證文ニ奧書割印ヲ爲ヘシ  
第三條 買受人又ハ讓受人(賣渡讓渡)証文ヲ領收スルトキハ  
地券(書換裏書)願書ニ雙方連印ノ上地券ヲ添ヘ戶長役場ヲ

經テ管轄廳ヘ差出スヘシ

第四條 第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルコトヲ得  
ト雖モ地租并地方稅ハ地券ニ記載セル姓名ノ者ヨリ徵收ス  
ヘシ

但地券紛失ノ際下附願出ルモ亦地券ニ記載セル姓名ノ者  
タルヘシ

第五條 死亡者失踪者ノ家督相續若クハ遺產相續及ヒ離縁戶  
主ノ家督相續ニ由リ土地ヲ讓受ケタル者ハ親族(親屬ナキ  
モノハ近隣ノ戶主)ト連印ノ上戶長役場ヲ經テ地券(書換裏  
書)願書ヲ管轄廳ヘ差出スヘシ若シ家督相續又ハ遺產相續  
ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ戶長役場迄之ヲ差出サ、ル者ハ證印  
稅五倍ノ科料ニ處ス

訴訟便宜



但本條期限内ニ地券(書換裏書)願書ヲ差出ス能ハサル事  
由アリテ之ヲ届出ル者ハ此限ニ非ス

地所賣渡証券券

何縣何郡何町何村何番地  
一田何反何畝何步



此代金何百圓

右ハ拙者所有地今般示談ノ上証人立會貴殿へ賣渡代  
金正ニ請取地所引渡候處實正也然ル上ハ御規則ニ基  
キ地券書換願迅速可取計候尤右地所ニ對シ租稅其他  
ノ未納決シテ無之萬一何様ノ事故出來候共保証人ニ

於テ負擔シ地所無相違引渡シ可申候後日ノ証トシテ  
此書面差出候也

何縣何郡何村

年月日

賣渡人 何之某印

同縣同郡同村

保証人 何之某印

何ノ地

何ノ某殿



地所讓渡証

實印紙

何縣何郡何村何番地  
一田何反何畝何步  
何縣何郡何村何番地  
一畑何反何畝何步

合反別何町何反何畝步

右ハ拙者所有地今般示談ノ上前書地所讓渡候處確實也然ル上ハ御規則ノ通地券書換願可致候尤右地所ニ對シ租稅其他ノ未納決シテ無之候後日ノ爲地所讓渡ノ証如件

何縣何郡何村

讓渡人 何ノ某印

何縣何郡何村

保証人 何ノ某印

年月日

何ノ地

何ノ某殿

○第十五章 證券印稅規則

明治十七年五月一日第拾壹號布告

明治七年(七月)第八拾壹號布告證券印稅規則別冊ノ通改正

訴訟便宜



明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年七月第二百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ

此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラヌ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

一當座預リ金引出小切手

印稅 五厘

一委任狀

同 五厘

一金高記載ナキ約定證文

同 壹錢

一遺(金物)證文

同 壹錢

一跡式讓證文

同 壹錢

一讓與證文

同 壹錢

一期限ヲ定メサル預リ金證文

同 壹錢

一耕地小作證文

同 壹錢

一雇人請合狀

同 壹錢

一金高記載ナキ諸物品預リ證文

同 壹錢

一金高記載ナキ諸物品借用證文

同 壹錢

一(地所家屋)預リ證文

同 壹錢

一諸物品切手

同 壹錢

一(借地借家)證文

同 壹錢

訴訟便宜

七十九



- 一 賣買仕切書 同 壹 錢
- 一 保險證文 同 壹 錢
- 一 諸會社株券 同 壹 錢
- 一 送金手形 同 壹 錢
- 一 (金錢諸物品)通帳 一年以内一冊ニ付 同 壹 錢
- 一 (金錢諸物品)判取帳 同 貳拾 錢
- 一 結社約定書 同 壹 錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナント雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

- 一 營業ニ關スル送狀 印稅 壹 錢
- 一 營業ニ關スル請取書 同 壹 錢
- 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

- 左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ
- 一 金錢借用證文
  - 一 (地所家屋)賣買證文
  - 一 金高記載アル諸物品預リ證文
  - 一 金高記載アル諸物品借用證文

訟訴便宜



一 諸物品賣買證文

一金錢定期預り證文

一金高記載アル諸般ノ契約證書

金高一圓以上二十圓未滿	同	印稅 壹錢
金高二十圓以上五十圓未滿	同	二錢
金高五十圓以上百圓未滿	同	四錢
金高百圓以上百五十圓未滿	同	六錢
金高百五十圓以上二百圓未滿	同	八錢
金高二百圓以上三百圓未滿	同	拾壹錢
金高三百圓以上四百圓未滿	同	拾四錢
金高四百圓以上六百圓未滿	同	二十錢
金高六百圓以上八百圓未滿	同	廿六錢

金高八百圓以上千圓未滿 同 三十二錢

金高千圓以上千四百圓未滿 同 三十八錢

金高千四百圓以上千七百圓未滿 同 四十四錢

金高千七百圓以上二千圓未滿 同 五十錢

金高二千圓以上二千五百圓未滿 同 六十錢

金高二千五百圓以上三千圓未滿 同 七十錢

金高三千圓以上三千五百圓未滿 同 八十錢

金高三千五百圓以上四千圓未滿 同 九十錢

金高四千圓以上 同 一圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定

ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿 印稅 四錢

新公便証 八十一



金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一金錢當座預リ證文

一質物(預リ書小札)

金高一圓以上二十圓未滿

印稅 壹錢

金高二十圓以上

同 貳錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附近見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅 貳錢

金高百圓以上

同 四錢

一爲替手形

一荷爲替手形

一約束手形

金高五拾圓未滿

印稅 壹錢

金高五拾圓以上百圓未滿

同 貳錢

金高百圓以上貳百圓未滿

同 四錢

金高貳百圓以上五百圓未滿

同 八錢

金高五百圓以上千圓未滿

同 拾五錢

金高千圓以上貳千圓未滿

同 廿五錢

金高貳千圓以上

同 五拾錢

第三條 前條ニ掲ケル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ

其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニテ第五條ノ手續ニ循ヒ

印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ

受ケル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

訴訟便宜



第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スルヘシ

第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌シコトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲グル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セズ

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿

一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル職員若クハ公立學校病院ニ従事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人へ差出ス請取證書

一震災救助金献金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙訴訟便宜



數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未ダ滿チサルカ又ハ使用期限未ダ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側

ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取摺セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若シハ金高ニ増減ヲ生スル者ハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手

訴訟便宜



形用紙ヲ用ヒタルモノハ脱税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印

ヲ爲サズ又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印税高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加

印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ壹圓以

上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

明治十七年五月一日太政官第拾貳號布達

今般第拾壹號布告ヲ以テ證券印稅規則改正候ニ付テハ印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價左ノ通り相定ム

但印紙ハ當分ノ内新舊取交貼用スルコトヲ得

印紙

赫色

定價 五 厘

訴訟便宜

八十三



橙黃色	同	壹	錢
黃綠色	同	貳	錢
萌實色	同	五	錢
桔梗色	同	拾	錢
青	同	貳拾	五錢
淡黑色	同	五拾	錢
赤	同	壹	圓
手形用紙	定價	壹	錢
老綠色	同	貳	錢
桔梗色	同	四	錢
淡黑色	同	八	錢
橙黃色	同	八	錢

淡赭色	同	拾	五錢
淡紅色	同	貳拾	五錢
淡青色	同	五拾	錢

一金何百圓也  
 借用金証書  
 但利子年何割

此返済ハ明治何年何月何日限可致候事  
 右ハ今般要用ニ付頭書金額証人立會正ニ受取借用致  
 シ候處確實也返済之儀ハ前書記載ノ通明治何年何月  
 何日限元利調金返済可致候若シ期日ニ至リ本人他行  
 其他何様ノ事故出來候共本人ニ不拘悉皆引受保証人  
 ニ於テ速ニ元利取揃ニ即時辨濟シ貴殿ニ毫モ損害ヲ

訟訴便宜  
 八十四



相係申聞敷候後日ノ証トシ各姓各自記調印シ此証書  
差出置候也

年月日

何縣何郡何村  
負債主 何之某印

何縣何郡何村  
保証人 何之某印

何ノ地

何ノ某殿

預リ金証書

一金何百圓也

右金額封印之儘正ニ請取預リ置候處實正也且預リ中

融通使用不致候間御入用之節ハ何時マリトモ此証書  
引續頭書之金額返却可致候爲後日此確証差入置候處  
如件

何縣何郡何村

預リ人 何之某印

何ノ地

何ノ某殿

借家証

何縣何郡何ノ地

一建家 壹棟

一土藏 壹棟

訴訟便宜



一物置 壹棟

但シ道具建具附別紙小拾帳添

一今般貴殿御所有ノ家作借受移住致シ候處相違無之候

一家賃ノ義ハ一ケ年金何拾何圓ト定メ毎月金何拾圓宛相納可申事

一期限ノ義ハ當何年何月ヨリ來ル何年何月迄ト相定其節速ニ明渡可申事

一若シ本人家賃相滞候節ハ請人辨金致シ貴殿へ御損害相掛ケ申間敷候

一住居ノ都合ニヨリ取結ヒ又ハ取除キ致シ候場所ハ從前ノ姿ニ取繕ヒ返却可致事

右之通約條致シ候上ハ聊違背致間敷後日ノ証トシテ借家証書出置候也

何縣何郡何村

年月日

借家人 何ノ 某印

保証人 何ノ 某印

何地

何ノ某殿



判事補猪瀬藤重閣

内藤傳右衛門編纂

### 改正訴訟手續

再刊

小本上下二册  
定價七拾五錢

本書第一回出版後江湖諸彦ノ博評ヲ得爲メニ是迄ノ製本悉皆  
實盡シタルノミナラズ需用者ノ望ヲ空フナル僅少ナラサルヲ  
以テ乃チ再刊ノ舉アル所以ナリ然ルニ今般該書ニ亘多ノ改正  
増補ヲ爲シ編ヲ六部ニ分チタルヲ以テ看者搜索ノ便ハ前回出  
版書ノ類ニアラス故ニ苟モ民事刑事ノ訴訟手續ヲ立チ所ニ辨  
知セント欲スルモノハ須臾モ坐右ヲ離スヘカラサル良書ナリ  
此書類似ノ册子有之候間必ス内藤出版ヲ御注目ノ上陸續御購  
求アラシメテ之ヲ

### 裁判所用諸願書賣拂廣告

- 代人許可願
- 身代限願
- 全上裁判訴狀用
- 御召喚願
- 右價各五厘宛
- 訴訟用十二行界紙
- 右各一枚價壹厘五毛
- 右願書類諸君謄寫ノ勞ヲ省カンガ爲メ悉ク活版ニ附シ廉價販賣仕候間此段廣告候也
- 郵便切手賣下所
- 上申書
- 御受書 出頭日用
- 審判延期願
- 執行命令願
- 抵當公賣願
- 公賣金受書
- 勸解願書

出版書肆

内藤傳右衛門



諸印紙賣捌廣告

○訴訟用印紙

○證券印紙

○手形用紙

○煙艸印紙

○賣藥印紙

右印紙類今回弊店ニ於テ賣捌候間此段廣告候也

賣捌所

山梨縣甲府常盤町

内藤傳右衛門方

前島東溪

明治十七年九月廿日御届

同

年十月

出版

定價金十八錢

編纂兼  
出版人

山梨縣平民

内藤傳右衛門

西山梨郡常盤町四番地



東京圖書館

新書門

十一部

類函

架

號

冊